

平成22年第1回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	平成22年3月5日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開議	平成22年3月19日 午後1時30分			議 長 太 田 重 喜	
	延会	平成22年3月19日 午後5時06分			議 長 太 田 重 喜	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	辻 浩 一	出	10番	副 島 孝 裕	出
	2番	山 口 忠 孝	出	11番	田 中 政 司	出
	3番	田 中 平 一 郎	出	12番	織 田 菊 男	出
	4番	山 下 芳 郎	出	13番	神 近 勝 彦	出
	5番	山 口 政 人	出	14番	田 口 好 秋	出
	6番	小 田 寛 之	出	15番	西 村 信 夫	出
	7番	大 島 恒 典	出	16番	平 野 昭 義	出
	8番	梶 原 睦 也	欠	17番	山 口 要	出
	9番	園 田 浩 之	出	18番	太 田 重 喜	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	谷口 太郎	健康づくり課長	蒲原 知愛子
	副市長	古賀 一也	こども課長	
	教育長	杉崎 士郎	産業建設課長	
	会計管理者	田中 明	学校教育課長	
	嬉野総合支所長	岸川 久一	社会教育課長	
	総務部長	大森 紹正	総務課長(支所)	坂本 健二
	企画部長	田代 勇	市民税務課長(支所)	小野 彰一
	健康福祉部長	片山 義郎	新幹線整備課長	須賀 照基
	産業建設部長	一ノ瀬 真	観光商工課長	
	教育部長	桑原 秋則	健康福祉課長	
	総務課長(本庁)	中島 直宏	農林課長	松尾 保幸
	財政課長	徳永 賢治	建設課長	
	市民税務課長(本庁)	渕野 美喜子	環境下水道課長	池田 博幸
	企画企業誘致課長	井上 嘉徳	農業委員会事務局長	
	地域づくり課長	中島 文二郎	水道課長	
	福祉課長		古湯温泉課長	
代表監査委員				
本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	江口 幸一郎		

# 平成22年第1回嬉野市議会定例会議事日程

平成22年3月19日（金）

本会議第7日目

午後1時30分開議

日程第1 議案質疑

議案第23号 平成22年度嬉野市一般会計予算

---

午後1時30分 開議

○議長（太田重喜君）

携帯は、切るかマナーモードをお願いします。

午前中の市内の各小学校への卒業式へ出席されました議員さんの皆さんにおかれましては大変お疲れさまでございました。

本日は梶原睦也議員が欠席で、山口要議員が遅刻であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

3月18日の議案質疑で予算書97ページ、2目、衛生手数料のし尿くみ取りの手数料についての神近勝彦議員の質問に対し答弁の申し出がっておりますので、これを許可します。環境下水道課長。

○環境下水道課長（池田博幸君）

昨日の神近議員さんの御質問で歳入のし尿くみ取り手数料の1億4,523万2,000円についてお答えをいたします。

平成21年度分につきましては、4月1日から業務委託を開始しております。徴収は5月から3月までの11カ月間の使用料となりますので、3月補正を1億3,690万円と見込んで2,036万円の減額をお願いをしております。平成22年度当初予算につきましては、前年度11月までの平均月額に12カ月を乗じまして1億4,523万2,000円を計上しております。回答が遅くなり申しわけございませんでした。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。

議事日程第1、議案質疑を行います。

3月18日に引き続き、議案第23号 平成22年度嬉野市一般会計予算について質疑を行います。

す。

予算書127ページから161ページ、第1款、議会費及び第2款、総務費の質疑を引き続き行います。質疑ありませんか。神近勝彦議員。

**○13番（神近勝彦君）**

それでは、130ページの13、委託料のところ職員健康診断、これ毎年毎年お尋ねをしてるわけなんですけども、今回50万円減額ということで、ある程度実績に基づくものかなという気がするわけなんですけども、このあたりについて21年度の健康診断、基本的には個人的に受けられてる方というものがいらっしゃられるので、すべて職員がこの健康診断を受けていらっしゃらないということは21年度にお聞きをいたしました。その点も含めてそういう状況がどうなのかという点と、臨時職員、そして嘱託職員についてはこの健康診断はどのような状況にあるのか、また派遣職員、これはまた形態全然違いますけども、派遣職員の健康診断についてもどういうふうな把握をされているのかお尋ねをしたいと思います。130ページです。

**○議長（太田重喜君）**

本庁総務課長。

**○総務課長（本庁）（中島直宏君）**

お答えいたします。

22年度の健康診断の予算につきましては250名分ということでお願いをしております。21年度の実績につきましては、職員が受診しましたのが217名、未受診者が7名ということになっております。

それから、派遣職員は、うちのほうでは受診をしておりません。臨時職員、嘱託職員につきましては健診をしていただいております。

金額の減額につきましては、実績によるものということでございます。

以上でございます。（13番神近勝彦君「わかりました」と呼ぶ）

**○議長（太田重喜君）**

神近勝彦議員。

**○13番（神近勝彦君）**

金額については実績に基づくものということで理解をするわけなんですけども、21年度について7名さんが未診断というのは全く受けていらっしゃらないんですかね、それとも今療養中であるとか、個人的に病院に行かれているとか、そういうふうにとらえていいのかわかですかね。

もう一点、臨時、また嘱託の職員さんについてはやられてるということで理解をするわけです、もう、派遣については派遣会社のほうが健康診断をしてると思うんですよね、健康診断をして多分雇い入れてると思うんですよ。それについての派遣会社から市役所のほうに

は、その個人個人の健康診断のデータとか、あるいはそういう情報関係というのが来ているのか来てないのか、その点だけお尋ねをしたいと思います。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

1点目の未受診者についての7名についてでございますけれども、病休が3名、それから育児休業が1名、産休が1人、そしてその他が2名ということで報告を受けております。それから、派遣会社からの健康診断の通知、連絡等につきましては、連絡を受けておりません。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

基本的には派遣職員については派遣会社が責任を持って把握するという原則があるんですけども、ある程度市役所のほうでもそういうデータ関係というものを手元に持っているのが私としてはいいのかなという気がいたします。いろんな持病関係あられるとは思うんですよ。そういう中でそういうデータというものは一応バックとして持つておく必要があると思いますので、今後そういうふうな資料関係、一応そろえていただきたいという希望を持っております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

派遣会社のほうに連絡をとりまして、そのようなことでデータをいただけるようであればいただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

134ページの財産管理費ということで、報酬の放置自動車廃物判定委員会の11人と書いてありますけれども、この11人の方はどのような人が判定をされるのかということで、ちょっと条例を見てみましたところが、自動車についての専門的な知識を有する人とか、あるいは学識経験者とか、関係行政課の職員とか、あるいは市長が必要と認める者ということで、条例には15名と書いてありますけれども、これは予算書には11名ということで、これはどういう

ふうな経過のもとでこういうふうになっておるのか、そのあたりお尋ねします。

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

放置自動車の判定員でございますけども、今現場的には議員がおっしゃったとおりで学識経験者とか、それから中には業界の人とか、それから弁護士の先生とかをお願いをいたしております。

それから、判定員つきましては、人数につきましては以内ということで11名をお願いをいたしております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

放置自動車というものは、もう自動車としての機能がなくなったということで市内の敷地内、道路及び公園等々に放置をしておるのが放置自動車だと思いますけども、現状市内ではどのような方向でそういうふうな事実関係があるのかどうか、その点を示していただきたいと思っております。

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

お答えいたします。

実際有料駐車場とか、それから公道の道路の空き地とかによくあります。景気のいいときは、連絡をして業者さんがすぐ回収をして廃車までということになっておりますけども、景気の動向で車検の切れた車を有料駐車場に乗り捨てるというのがよくあっております。これを本人に連絡してやるわけですけども、そういうところでそういうふうに乗捨てる人は、やっぱりいろいろもうそういうふうにしない人でございます、なかなか決着がつかないと、それから行方不明の人もおるといことで、警察も一応連絡はとりますけども、後でやっぱり官のほうでどうしても処理を置き場所を変えたりして、そして最終的にはこの委員会にかけて公的に処理をさせていただくというのが現状でございます。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

そういう車が放置されとった場合については、告知をしてから3カ月というようなことで条例がなっております、そしてその経過後また半年というような経過措置もありまして、

この関係につきましては、市が保有して売却もして保管しておくべきというようなことで書いてありますけど、そういうふうなことが現実あっておるのかどうか、たとえ市が売却をして、その車の代金を保管するとか、そういう部分があるのかどうか、そしてまた今後この対策についてどのような対策を講じていくべきなのか、その点最後ですけどお尋ねしたいと思いますけど。

**○議長（太田重喜君）**

支所総務課長。

**○総務課長（支所）（坂本健二君）**

最終的には放置車がある一定期間保管をしながら判定委員会にかけて処理をするわけですが、売却をして売却費用をとということでございますけども、はっきり言いましてマイナスが出ます。移動させるだけでもレッカー車をしたりかぎあけをしたりしますので、もうすぐ1万円以上の金がかかりまして、もうはっきり言って保管しとくような、現実的には発生しないということでございます。

件数につきましては、今のところ幸い片づきましたので、今現状では1件です。過去にはもう5台ほど処理をした例はあります。

対策ですけども、やっぱり車をお持ちの方のマナーと申しますか、もうそれに頼らざるを得ないと、むやみに広報しても逆効果でございます、我々も苦慮をしているところでございます。

以上です。

**○議長（太田重喜君）**

ほかに質疑ございませんか。平野昭義議員。

**○16番（平野昭義君）**

138ページ、企画費から下、定住促進奨励金3,070万円ですね、このことについての20年7月からこれが施行されて、昨年の分を見ておったら8件、28名の方がその恩典を受けて市内に来られたということで、場所としては東京1件、鹿島1件、武雄6件と聞いております。そしてまた、平均世帯が3.5人と、これ定住促進というたら、非常に今考えればかん時代じゃないかと、特に田舎は高齢者が多くなってしまって活力を失うと、今度の3,000万円を定住人口で目標を立てられますけど、具体的な何か執行部のほうで計画があれば、それを教えてください。

**○議長（太田重喜君）**

企画企業誘致課長。

**○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）**

お答えします。

定住促進並びに持家奨励金につきまして具体的なこちらのほうでの施策でいうことでござ

いますが、現状ではどんどんどん問い合わせのほうが大変多ございます状況でございますので、今の段階で広報につきましては市のホームページとかさきに市報等で広報した以外、今の段階ではやっておりません。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

平野昭義議員。

○16番（平野昭義君）

前年度は755万円でそういう成果があったと、今年度はその数倍の3,000万円の予算ですから、目標としては市外より市内に来る人が10件、それから持ち家が15件と説明書をちょっと見てみたらあります。その中に持ち家の方を今度新しく変わった制度をどういうふうにして地域の方に連絡する広報紙ですよね、例えば不動産屋さんとか大工さんとか、それに直接関係するごたあ人にしてが一番近道と思いますけど、そういう点については何かありますか。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

ただいまの御質問にお答えします。

基本的に市報に掲示して広報したところでございます。そういったことで、市民の方かなりこれに対しては関心を持っておられるとこちらのほうでも感じておりますし、もとより建設事業をされてる方のほうからのお問い合わせ等もあっておりますので、現在のところこれ以上広報をしないということで、市内については考えておらないところですが、市外等の企業等については、これから広報等をしていくような計画でおります。

以上です。

○議長（太田重喜君）

平野昭義議員。

○16番（平野昭義君）

幸い有線テレビが非常に普及しておりますので、テレビのコマーシャルというんですかね、ああいうのと料金が安ければできれば本当言えば東京、大阪もいいんでしょうけど、とりあえず有線テレビでする範囲でもすれば、それがずっと媒体になって伝わって親戚とかなんかから電話があつて広がりゃせんかと思えますけど、そういうような有線のテレビとかそういうようなを活用するということは予算的には、予算は大したことありませんけど考えておりますか。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

有線テレビの件でございますが、市のほうで有線テレビさんのチャンネルの時間帯を借りてやってる部分については既に実施しているところでございます。また、再度したほうがよいのかどうかについては、これから検討したいと思えます。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

132ページ、文書広報費なんですけども、需用費、役務費、使用料関係全部一括で質問をしたいんですが。

○議長（太田重喜君）

はい、どうぞ。

○13番（神近勝彦君）

これは今まで21年度までは総務が一括して通信運搬から消耗品、またあるいは事務機器関係のある程度できるところまではやっておられたという経緯があって、補正関係の中で総務課のほうからお聞きしてるのが、かなりふえていると、その原因そのものについてはなかなか把握ができていないというふうなことでずっとお聞きをしとったわけですよ。そういう中で今回こんだけ減額があったということは、多分総務課一括から各課に戻せる分は戻されたのかなという気がするわけですね。そのあたりを含めてどうだったのかと、21年度が補正の中ではかなりふえているというふうな話を聞いてとったわけなんですけども、当初予算に比べてどれだけ21年度としてはふえているのか、そのあたりをお教え願えますか。需用費の消耗品と通信運搬費、それから事務機器使用料。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えいたします。

消耗品費につきましては、コピー用紙等の減額ということで消耗品につきまして149万3,000円ほどの前年対比の減額となっております。それから、役務費につきまして通信運搬費でございますが、これは各課のほうへ調査を出しまして今記録をとっておりますので、その実績に応じまして各課のほうに予算を振り分けをしております。その辺のことで各課へ振り分けた分が318万7,000円でございます。それで、合計しますと、大体昨年並みの役務費の金額になると思えます。

以上でございますが。（13番神近勝彦君「いやいや、違う、違う、違う、違う、それはわかってるんですよ、それはわかってるんですよ、はっきり言って。そやけんが、今まで補正予算の中で結局総務の中の消耗品とか通信運搬費がかなり増加傾向にあるということをお聞きしとったわけですよ。だから、22年度については各課に回せる分は回したいというふう

なお話を聞いたもんだから、今度の22年度の当初予算はそういうふうに各課に渡されたものということで理解は一応してるんですよ。ですから、補正予算の中でふえてる、ふえてるというふうにおっしゃってたもんですから、21年度の当初予算に対して今のつかみとしてはどれくらいふえてるんですかというのが2番目の質問です」と呼ぶ)

○議長（太田重喜君）

暫時休憩します。

午後 1 時53分 休憩

午後 1 時53分 再開

○議長（太田重喜君）

再開します。

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

今御指摘いただきました件につきましては、20年度の中で足りないからということで補正をされたということかと思いますが、それで21年度におきましては各課の実績を調査をいたしまして、各課のほうへ振り分けをしたということでございます。（13番神近勝彦君「21年度やったですかね」と呼ぶ）はい、20年度にあつて、21年度に実績を把握しまして、22年度に予算を計上しております。

以上でございます。（13番神近勝彦君「ほんなら私の勘違いですね、申しわけございません。じゃ、14の事務機器賃借料、使用料が減った分というのも、それと考えていいんですか。今、消耗品と通信運搬費の2件については御答弁あったんですが、事務機器の使用料についてはまだ御答弁がないんですが」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

お答えします。

おっしゃるとおり支所の分は支所のほうに事務機器の分は管財のほうに組みさせていただいております、22年度はですね。（13番神近勝彦君「だから、支所の分、の管財」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

いいですか。（13番神近勝彦君「ちょっと済みません、ちょっと待ってください」と呼ぶ）神近議員。

○13番（神近勝彦君）

そしたら、支所の総務課長にお尋ねをしたいんですが、そしたら約150万円近く、100万円近く減額されてますよね、事務機器使用料。21年度の当初予算151万2,000円というふうな計

上をされてると思うんですよ、ですよ、151万2,000円当初予算で組まれてるはずなんですよ。賃借料が181万円、ですよ。ですから、この分が2つの項目の中で結局使用料については約100万円、賃借料について約50万円が減額をされてるわけですよ。先ほどの課長の話でいくと、その分が支所のほうの財産管理のほうに行ったということであれば、どの部分にどういうふうに行ったと見ていいんですかね、そこだけ教えてください。

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

新年度予算の135ページの使用料及び賃借料の事務機器リース41万5,000円と事務機器使用料72万円でございます。（13番神近勝彦君「この分ですね」と呼ぶ）はい。失礼しました。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。（13番神近勝彦君「3回目ですかね」と呼ぶ）

○13番（神近勝彦君）

そういうことであれば、新たに135ページに新規で上がっておりますので理解をするわけなんです、そうなるのかなり努力をされて金額的にも安くなってきてるわけなんです、この点についてはリース料が安くなったのか、それともこの中に含まれていた使用料あるいはリース関係がほかの課のほうに移動になってるのかどうか、その点についてお尋ねをしたいと思います。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

使用料及び賃借料につきましては、事務機のほうで119万3,000円、この分につきましてはほかの課への配置をしておりますので、この分が減額になっております。

それから、コピー機の使用料ですけれども、これが5台分を計上しておりますが、この分の期限が切れた分がございましたので、その分で単価が安くなってるということで100万円程度の減額となっております。

以上でございます。（13番神近勝彦君「わかりました」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。山口忠孝議員。

○2番（山口忠孝君）

言葉の説明をお尋ねしたいんですけど、130ページ、131ページ、公平委員会及び嬉野クラブ、どんなものでしょうか。

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

嬉野クラブについてお答えをいたします。

これは、東京、大阪、福岡のふるさと会のことを総称して嬉野クラブと呼んでおります。

6団体でございます。

○議長（太田重喜君）

公平委員会は。支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

公平委員会でございますが、いわゆる分限、それとか懲戒とかを自治体が措置をしたときにそのまた裁定をしてもらう組織でございます。県にある組織でございます。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。園田浩之議員。

○9番（園田浩之君）

129ページの一般管理費の報酬の行政嘱託員のことでございますけども、この件に関しては一般質問でも嬉野の嘱託員と塩田の嘱託員のバランスがとれてないので改善すべきだという質問なりいろんな注文があつてわけですが、今回また同じ予算が上がっておりますけども、この件に対して検討がなされたのか、全然なされた経緯があるのか、あるいは全くなかったのかお尋ねします。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

行政嘱託員につきましては、今年度見直しをするように検討しております。22年度でやるようにしております。（9番園田浩之君「22年度の予算全く変わってないんですけど」と呼ぶ）今のところはまだ確定でございませんので、22年度に入りましてから、要するに交渉をしていながら相談をしながら進めていきたいというふうに考えております。

○議長（太田重喜君）

園田浩之議員。

○9番（園田浩之君）

じゃ、時期的にはいつごろから検討に入られる予定になっておりますか。

○議長（太田重喜君）

総務部長。

○総務部長（大森紹正君）

行政嘱託員さんについては4月から新しい任期でスタートしますので、できましたら新し

い嘱託員さんが決まられてから、早急に取りかかりたいというふうに考えております。

○議長（太田重喜君）

園田浩之議員。

○9番（園田浩之君）

3回目ですからあれですけど、それでは今回検討をして次年度からということか、あるいはもう今年度からもう改正に入るとか、いろいろございましょうけども、これ段階的になさる予定なのか、もう一気にいかれるというか、人口のバランスを考えて大なたを振るうというのか、どちらの方向性を持って検討されるのか示してください。

○議長（太田重喜君）

総務部長。

○総務部長（大森紹正君）

まず、当初に任期としては22年度の嘱託員さんについては1年間という任期で辞令を交付いたしますので、なるべく22年度中に解決を図り、実施については23年度からできればというふうに考えております。（9番園田浩之君「規模的なところが回答がないんですけど」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

何のところ。（9番園田浩之君「段階的にやられるのか、それともそれなりの人口比に合わせてやられるのか、そういうところも含めての検討なのか、それとももう、そこら辺のあんばいというか」と呼ぶ）総務部長。

○総務部長（大森紹正君）

できましたら嬉野、塩田、バランスがとれたような形で改正ができればというふうに考えております。

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。（17番山口 要君「関連」と呼ぶ）山口要議員。

○17番（山口 要君）

今の分の今回そういうふうなことでされるということで了解をいたしましたけども、ちょっと重箱の隅で申しわけないんですけども、昨年度……。

○議長（太田重喜君）

マイク入ってません、マイク。

○17番（山口 要君）

昨年度4,617万6,000円計上されて、今回4,600万円という数字で計上されておるのは、これは世帯割なのか基本割なのか、それとも加入率割なのか、そこら辺が加減があつてこのような計上されたのかということをお尋ねをしてみたいと思いますけれども、嘱託員数は定数変わっておりませんので。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

行政嘱託員の報酬につきましては、基本額の部分とそれから加入率に対する部分、配布割に対する部分ということでございますけれども、これにつきましては人口の減による減少ということでございます。（17番山口 要君「わかりました」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。織田菊男議員。

○12番（織田菊男君）

138ページ、これ毎年お尋ねしておりますが、廃止路線代替バスの運行費と生活交通路線維持費というのが出ております。これは一応補助金を組んである以上は何か基準があると思っておりますので、基準をちょっと教えてくれませんか。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

廃止路線のバスを運行していただいているわけですが、その運行距離等によって補助基本額等が決まるわけですが、その運行費用マイナス補助基本額を差し引いて欠損額が出るわけですが、それで、その補助基本額に対する県等の補助金がございますので、その県等の補助金を差し引いた部分についてうちのほうの廃止代替バス、欠損金の廃止代替バスの補助金という形で計上させていただいているという状況でございます。（12番織田菊男君「金額は」と呼ぶ）お答えします。現在、祐徳バスさんのほうにお願いしている分についての補助基本額は265万7,000円程度になっております。それから、再耕庵タクシーさんにお願いしております部分について補助基本額が18万1,000円となっております。

以上でございます。（12番織田菊男君「基準額はどういうふうに出してるわけですかね、基準があつとるから基準額を出したわけでしょう。金額だけ265万円ぐらいとか18万1,000円と言われても、ちょっとこの基準がどがいなつとるかわからん、ちょっとこの基準を教えてください」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

暫時休憩します。

午後2時9分 休憩

午後2時10分 再開

○議長（太田重喜君）

再開します。企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

申しわけございません。補助基本額の計算方法がちょっと別途資料を手元に持っておりませんので、後で御報告申し上げたいと思います。

○議長（太田重喜君）

織田菊男議員。

○12番（織田菊男君）

バスも乗り合いタクシーも非常に乗車人員が少ないと聞いております。大体1路線につき大体1日当たりどのくらいの乗車人員がございますか。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

1日当たりどの程度乗ってるかというような御質問でございますが、乗車密度といたしましては、ちょっと1日1本当たり1.0を切っている、0.4とか0.6とか、再耕庵タクシーにつきましては0.5とか、場合によっては0.2とか、そういった数字が上がっております。

○議長（太田重喜君）

織田菊男議員。

○12番（織田菊男君）

今の説明では0.4から0.6ぐらいということでございますが、この状態じゃ、バスの運行というのはなかなか厳しいと思います。そういう点で乗り合いタクシーにずっと今後移る可能性は、市の関係で移る可能性はあると思いますが、そのような形にいくと、結構経費的に厳しくなるんじゃないかというふうな考え持っておりますが、市長の考えは交通関係に対してどのようなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先日お尋ねいただいた件でもお答え申し上げましたけども、乗り合いタクシーを今ずっと走らせておりますけども、それぞれ半年で100万円以上の赤字が出ております。それで、新しく新設しました大野原線、それから春日線につきましても同じような赤字でございまして、上久間線あたりも同じでございます。そういうことで、できましたらぜひ利用をとということで、現在上久間線あたりは少し改善をいたしまして、例えばお店の前とか病院あたりを回すような路線を組んでおります。また、春日線とか大野原線につきましても、しばらく走らせた後で地域の方の御意見をいただきながら少し路線を変えていくとか、そういうことを検討

いたしまして、主に御高齢者の方が多いと思いますけども、利用を少し活発にさせていただくように、そういう点は工夫をしていきたいというふうに思っております。ただ、それでもなかなか厳しいわけでございますので、これも議会にお願いしてと思いますけども、ある程度予算を組んでいかなければならないかなというふうに思っているところでございます。

以上でございます。

**○議長（太田重喜君）**

神近議員。

**○13番（神近勝彦君）**

今路線バスの代替の件で質問があつたわけですが、中身については大体理解をするわけですね。上久間線が22年度の予算でいくと若干の今までのバスから比べれば少しは赤字が減ったのかなという気がするわけですよ、予算書を見る限りですね。今大野原線、それから春日線、今、昨年から21年度から試験的運行ということをやられております。この半年間の実績の中で、やはり乗り合いタクシーのほうが経費余りかからないだろうという気はするんですけども、実質的に1年間丸々バスでやったときの試算と、半年間乗り合いタクシーをやられてるんですよ、そのときではどれぐらい安くなったというたらおかしいでしょうけども、そういうふうな経費の面でメリットがあつたのかっていうのがわかれば教えていただきたいというのと、またほかに予算書でいきますと下吉田線、資料の12ページを見ますと、下吉田線がかなり今回大きな補助額で上がってきてるんですよ。このあたりが乗車率がかなり悪いということで上がってるということは理解をするんですが、これだけ上がってくれば、このバス路線の考え方も下吉田を考えていかなければならないだろうという気がするんですけども、この下吉田線についてどのような考えをお持ちなのかということでお尋ねをしたいと思います。

**○議長（太田重喜君）**

市長。

**○市長（谷口太一郎君）**

お答えいたします。

細かい資料等は必要でしたら担当からお答え申し上げますけども、祐徳バスさんから社長以下、また取締役もおそろいでお話に来られたわけございまして、その際におっしゃいましたことは、今お話の春日線とかそれにつきましては、自社のバスの便のいろんな関係もございまして、私どもが補助を出したにしてもせひやめさせてほしいということでございまして、乗り合いタクシーに変えていこうという判断をした原因でもございます。また、下吉田線も祐徳バスさんとしては補助を出すということで今お願いしとるわけでございますけども、それでも将来的にはぜひ廃止にさせていただきたいというのが本音のところでございます。といいますのは、1台バスを回しますと、私どもではなくて祐徳バスさん全車の路線

にかかわってきますもんですから、非常な負担になってるということでございまして、幹部の方の話では、市内全路線と言われましたので、例えば鹿島から武雄まで行く路線とかいろいろありますけども、非常に祐徳バスさんとしては、私のところとの長い関係とかありまして御好意的にはしていただいておりますけども、路線バスということ自体難しいというふうに感じておられるということでございまして、下吉田線については本当に頭を下げたて継続していただいとるところが正直なところでございます。

以上でございます。

**○議長（太田重喜君）**

企画企業誘致課長。

**○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）**

お答えします。

神近議員さんお考えのとおり、これまでどおりのような運行形態をとっていきますと赤字というか、うちのほうの負担はふえるばかりでございます。祐徳バスさんで運行していただいていたのは当然毎日運行をしていただいております。乗り合いタクシーに移行いたしましたは、春日線週3回とか、大野原線週2回という形で便数を減らしながら市の負担も減るというような形になっているかとは思いますが、これも毎日ということになれば当然今までの廃止代替バス時のうちの負担よりも逆に言うとふえる可能性も当然ありますし、これから先の市の負担を財政等を考えた場合、やはり廃止代替バス路線時に市が負担しておったような金額が上限あるいはそこら辺が一つの線になるのかなあというような、私としてはそういった気がしております。

以上です。

**○議長（太田重喜君）**

神近勝彦議員。

**○13番（神近勝彦君）**

今市長また並びに課長のほうから御答弁いただきました。かなり高齢の方が利用されるんですけども、どうしても利用率が悪いというのは、もう実情で、祐徳バスさんがもう撤退をしたいというのはもうわかるわけですよ。今、福岡の西鉄バスですか、路線撤退ということでかなりマスコミ関係でも報道されておりますので、それはもうどこのバス会社も一緒だろうという気がします。ですから、下吉田線についても今後どうされるのか、ところが下吉田については子供たちの通学バスという大きな側面があって、現在のこの春日線とか大野原線みたいになかなか週2回とか週3回となれば、なかなか厳しい状況があるものというふうなところも理解してるんですよ。ですから、下吉田線についてはもう少し協議会のほうで検討をいただいてどういう方法がいいのかと、乗り合いタクシーのほうがいいのか、あるいは現在のところ市がマイクロバス持ってますよね、そういうふうなバスの利用という

のを今後検討していくのかということについても論議をしていただきたいと思います。余りにもちょっと今後負担がふえるようであれば、なかなか厳しい状況というのはあると思いますので。

もう一点これお願いなんですけども、春日線とか大野原線、週2回、週3回ですよ、言われたのが、何かのイベントのとき、日曜日なんかイベントが仮にあるときには、そのイベントのときだけでもいいから日曜日運行ができないだろうかというふうな御要望をいただいております。運動会であるとか、あるいはこの前の選挙のときに言われたんですよ。選挙に行きたいけれども、その日はバスが来てないから行けないですもんねというふうなことをおっしゃいました。その後会ったときには、今はもう期日前投票ができるから、期日前投票というのを利用しながらということもおっしゃったんですけども、やはりなかなか日曜日でそういうふうなイベントがあるときには、行きたくでも行けないというふうなこともおっしゃったものですから、だからイベントのときだけでもいいからというふうなことをおっしゃっておいりましたので、そういう御検討も協議会の中でしていただければ、本当に地域の人たちとしては助かるのかなという気がしますので、これは要望としてお願いしときます。

**○議長（太田重喜君）**

企画企業誘致課長。

**○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）**

ただいまの御要望につきましては、協議会等で諮りながら、実施できるものであれば、そういう方向にしていきたいと考えます。

以上です。（15番西村信夫君「関連です」と呼ぶ）

**○議長（太田重喜君）**

関連ですか。西村議員。

**○15番（西村信夫君）**

神近議員の質問に関連しますけれども、地域交通の公共交通の協議会というのが結成されて今協議がなされておって、会長さんには副市長がなっていて、定期的に会議をされておまして、計上としては615万円ですね、約616万円ぐらい計上されておりますけども、これは大野原線と春日線の補てんにほぼ使っていただいている、計上されておりますが、この関係についてはこの協議会の予算を組むに当たって循環バスの導入に向けて検討をさらにするというふうなこともうたわれておりますけれども、本当にこの循環バスの導入に向けて計画的なものがあるのかどうか、いつごろのめどを持ってこの循環バスを嬉野市として取り組むべきなのか、その点を考えておられるのかどうか、その点をお尋ねしたいと思いますけど。

**○議長（太田重喜君）**

副市長。

**○副市長（古賀一也君）**

お答えいたします。

循環バスにつきましては、具体的にまだ何の論議もいたしておりません。今、委託した業者さんがこういう案の素案の素案というようなことで今持ってきておられるような状況でございまして、まだその中身についていろいろまだ協議会の中で議題として上げて論議したことはございません。今後もまだ将来的にはそのようなことも考えられるわけですが、そのことについては今後論議するに当たってちょっと今の時期としてはいつごろになるのかということについてはちょっと今のところわからないというような状況でございます。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

西村議員。

○15番（西村信夫君）

一般質問で聞きそびれた部分あるいはお尋ねしていかなきゃならないというような部分もありましたけど、残されとる部分をちょっと質問していきたいと思いますが、この予算の計上に当たっては、協議会としてもいろんな地域の要望等アンケート調査されておまして、この間お話をしたのは平重か、あそこまで伸ばしていただきたいという要望があって、これは大野原の35件の地権者の総意だろうと思うわけですよ、橋向こうね。そういった部分についての回答をどうすべきかということで、皆さん地域の人はお待ちしたと思うわけですよ。早急にこの結論をどうすべきかということ、そして私が答弁いただき、それ見とったんですが、バスセンターに入れてくれと、そしてまた行路を新たに町の中心部まで運行してくれと、あるいは嬉野高校まで行ってくれと、そしてまたあそこの医療センターの玄関までつけてくれという要望も切実な要望が出ておりますので、それを放置すべきものでないわけですから、しっかり協議会として早く地域に対する検討課題を明示すべきやと思うけども、その点をお尋ねしたいと思いますけど。

○議長（太田重喜君）

副市長。

○副市長（古賀一也君）

ただいまの御質問にお答えいたしますが、せんだって大野原の地区から平重までというような要望書が出されております。そのことにつきましては、今後平重までとかそういうふうに医療センターそういうふうに今度のもとの古湯温泉ですね、あそこまでとか、いろいろな要望があることは一応お聞きはいたしております。そうするにいたしましても、一応協議会の中で再度決定論議をお願いしたいというふうに思っておりますので、できるだけ早いうちにそのような協議会を開いて、住民の要望に沿えるような形で論議をしてみたいというふうに思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

田口議員。

○14番（田口好秋君）

135ページ、財産管理費の委託料で花壇植栽管理で45万円ほど上げておられます。これは説明資料の中で見てもわかりますが、これ年に何回ほどあの花壇にどういったものを計画しておられるのか、1回だけじゃないと思いますんで、そういった回数をまずお尋ねしたいと思います。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

本庁舎前の駐車場整備の中で花壇を整備するようにいたしましたところです。この花壇の整備内容につきましては、一番交通量も多いところでもありますので、一年じゅう花が見れるようにということで計画をいたしております。それで、その花の時期というのがいろいろ花の種類によって違うかと思いますが、その花を一年じゅう見れるような格好で管理をしていくということになります。

以上です。

○議長（太田重喜君）

田口議員。

○14番（田口好秋君）

大体私もこれ見てわかるんですが、私にいろいろ意見を言う人がおりまして、いろんな人がですね、1つはそのちょうど花壇の前に床屋さんがありますね、あそこで先ほども聞いたんですが、あそこをいいという人は一人もいませんね。何でこういうことをやっとなんだという人がほとんどでした。私にも今からでも何とかできんかということもありました。駐車場がないのに、あそこ何台とめられると思っとなかというような厳しい意見をですね、あそこはよかねっていう人は、まずいません。そういったことで、私たちも以前にあそこを購入して駐車場にするということには私たちも賛成したわけですが、ああいった形でできるというのは夢にも私たちは見ておらなかったもんですから、ああいうものが出て始めてわかったんですが、非常に住民の人はあそこをしょっちゅう通る人、近所の人、私に対して厳しい意見、それから先ほど申し上げましたあその床屋のお客さんで一人もいいという人はいないという現実があります。ですから、できるだけ先ほど言われたように、もうここまで来たらしょうがありませんので、一年じゅうそれこそここに書いてあるように、この市の本庁舎の前でもあるし顔的存在とここに書いてあるように、ぜひきちんとした整備、それから管理をお願いしたいなあと、そういった厳しい意見があるということも踏まえた上での管理をお願いしときます。

以上です。

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。（16番平野昭義君「関連」と呼ぶ）関連ですか。平野議員。

○16番（平野昭義君）

今の話で、これについてはシルバー人材の方の話の中では、これは今の絡みとはちょっと直接関係なくしても、もう少し市の職員やったら、夏に乾燥しとるときに水もかけんばいと、全くもう何かね、毎朝毎朝見ておるのにというような、そういうふうな不満を漏らして、そのかわり私たちがしておりますと、そういう点について、やっぱりせっかくいいものをすれば、市の職員さんたちも回りばんこでもいいですから、何かそういうふうなボランティア的なことをできないかなと思いますけど、この点答弁してください。

○議長（太田重喜君）

ちょっと議案書を外れているようでございますが、1問だけならいいです。だれか答えてください。関連にしてもちょっと外れ過ぎ。だれかどなたか。財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

今回、本庁舎の玄関口ということでこういうことで整備をさせていただきますが、当然業者さんへの委託はいたすところですが、当然財政課管財のほうで所管をいたしますので、十分注意しながら管理をしていきたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（太田重喜君）

平野議員。

○16番（平野昭義君）

注意と言われましたけども、注意じゃなくして、そういうことに参画しますという返事を私は欲しかわけですよ。もう少しせっかくツゲの木ですかね、あれは少々強いですから、夏にはやっぱり乾燥するわけででしょう。やっぱり黄になって枯れよつたと、そういうふうにもう見るに見られずしてシルバーの方が水をまいたと、そういうときにやっぱり幾ら職員さんは勤務時間がありましようけど、シルバーにも勤務時間もありましよう。ですから、お互いのそんな景観をよくするという意味では、気づいた人がやってくれと、そういう指導をお願いしたかと、管理の方は今は徳永さんかな、いかがですか。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

大変失礼いたしました。先ほど私本庁舎前の花壇のことを申し上げてしまいまして、ツゲ

とかについては、もうまことにお恥ずかしい話ですが、シルバー人材の方に頼ってばかりいたところがございます。それで、以後十分注意しながら、私どものほうもすぐ何かできることがあればやっていきたいというふうに考えます。

以上です。

○議長（太田重喜君）

ほかに。園田議員。

○9番（園田浩之君）

135ページですけど、上から2段目ですけど、旧ストックヤード分筆不動産鑑定業務68万円ですが、これは財産収入の12万4,000円と関連があるのか、なければ、どのような分筆のされ方を考えておられるのかお尋ねいたします。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

旧ストックヤードの分筆不動産鑑定業務ということで68万円をお願いをいたしておるところですけども、まず歳入のほうについては、現在市有地でございますので、ここを借地契約で使用料になります。今回出のほうで分筆と鑑定業務ということで計上させていただいてる分につきましては、現在使用していただいている方から購入の申し込みがっております。そういうことで、あそこが一体的な広さがありまして、その中で今現在使用されております塩田環境さんですか、その部分についてのみを希望されておりますので、分筆をさせていただいて幾らぐらいになるのかという鑑定を不動産の鑑定をさせていただいて、面積及びもし売買するとすれば売買価格を算出するためのものがございます、また売却するとなれば、改めて議会のほうにお諮りする必要があるかと思いますが、まずは分筆、それから不動産の鑑定というふうなことでお願いをいたしておるところです。

以上です。

○議長（太田重喜君）

園田議員。

○9番（園田浩之君）

分筆するということは、当然売却を前提にされてるものと理解せざるを得んですけれども、今後ずっと借りられるということであるならば分筆する必要もありませんので、分筆されるということは、当然売却を予定されると、そのように解釈せざるを得んわけですよ、そう課長もおっしゃったように、ただはっきり売却するという答弁はなかったわけですが、そこですけども、使用料が12万4,000円でしたかね、月に直すと1万円とちょっとですが、1万円ちょっとの使用料ということでそう広い面積じゃないと思われるわけですが、そこで

68万円ですか、68万円の費用を払って分筆をしていかほどで売れるかはともかくとしても、68万円を12万円で割ると5年分ですか、5年分の収入をチャラにするわけですよね。当然もう売却ということになったら、この68万円は手数料として上乗せして売却されるべきだと思うんですが、そこら辺の確認をお願いします。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

売却をするんじゃないかということですが、今使用をさせていただいておるし、不要財産についてはある程度処分していく必要もあるということで売却のほうに考えてもいいんじゃないかということの段階でございます。ただ、その上に全体面積としてはあそこが1,152平米ぐらいあるかと思えます。その中の塩田環境さんが使用されてる部分になりますが、大体売却した場合、これ正式に不動産鑑定しないとわかりませんが、仮に売却したとして400万円台ちょっと超えるんじゃないかなろうかというふうに思われます。そういうことで使用料としては年12万4,700円でございますが、ある程度の採算と申しますか、貸付料に対する採算というのはとれていくんじゃないかなろうかというふうに考えております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

園田浩之議員。

○9番（園田浩之君）

3回目ですが、その千百何平米の中の売却するということになると400万円ぐらいだろうということですが、全体の面積からする比率、シェア、何%ぐらいになるのかですよね、その分筆したことによって当然残る面積があるわけですが、分筆したことによって、今度その残った分が売りづらいというふうなことも考えられるわけですが、そこら辺がちょっと何%かがわからないし、もう3回目の質問になりますので、ちょっと疑問を残しながら質問を終わるわけでございますけども、どのくらい残るのかということをお願いします。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

あその部分については3人の方にお貸ししております。1つが塩田環境さんですね、もう一つが久間飼料生産組合の倉庫としてお貸しをしております。もう一つが久間米麦乾燥調達施設ということで、この3つの団体にお貸しをしているところで、ちょっと地形的に言いますとこの3つを区分けできるような形状になっております。そして、ちょっと私が全体面積

を出してこの環境分を出していないのですが、久間飼料さんのほうには128平米、米穀さんのほうには193平米ということで、差し引きになりますが831平米が環境さんの敷地面積というふうになります。これで全部。

○議長（太田重喜君）

残りのところが売りづらくなるというふうなこと……。

○財政課長（徳永賢治君）

済みません、残りについては、形状的に売りづらくなるということにはならないと思います。現在あとの2団体のほうが利用されておりますので、ここの環境さんの分を切り離すことによって影響出るような状況ではないと思われま

す。以上です。（9番園田浩之君「あと一回ありますか」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

だめ。別の問題。（9番園田浩之君「いや、あと一回、だめですかね」と呼ぶ）園田議員。

○9番（園田浩之君）

済みません、最初から面積を聞いてりゃよかったんですけども、残りの2団体のことはちょっと認識してなかったもので、分筆をするに当たってその3団体分を3つに分筆されるというふうに解釈していいです、それともそこだけ残して、あるいは当然分筆をするということは、買いたいという申し入れがあったからそのように応じられてると思うんですが、残りの2団体もそのような働きがあるのか、あるいはその後こちらからするのかということをお聞きします。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

今回、分筆調査をするのは、買い受けのあったところのみになります。そして、あとの2団体につきましては、今のところ買い受けの申し出等あっておりません。そして、今後するかというと、こちらから積極的に働きかけをするかということ、ちょっと検討する必要もあるかと思いますが、状況によっては購入されてはどうですかということで働きかけする場合もあるかと思いますが、今のところそこまでは考えておりません。

以上です。（13番神近勝彦君「関連」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

神近議員。

○13番（神近勝彦君）

関連なんですけども、まず不動産鑑定業務、これ大体68万円のうち幾らぐらい予定をされてるのかですね、先ほど園田議員さんも質問されてましたけども、相手方から買いたいと

いう申し入れがあったということで今回されるわけですね。最終的に金額が仮に出たと、先ほどは仮に400万円程度になるんじゃないかというおおむねの金額をおっしゃいましたけれども、この金額を向こうに提示されたときに、結局向こうが買わないと、今までどおり借入れをしたいということもおっしゃる可能性はあるわけですね、一応提示を受けなければ向こうははっきり言わないでしょうから。そうなったときに、ほんなら今までどおり借地契約でいくとなったときに、その不動産鑑定そのものが結局市がただ出すだけの話になるものですから、結局もしもう引き続き借りられるとなったときのこの不動産鑑定の費用の分がどうなるのかなという気がするもので、まずその点をお教えいただきたいと思います。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

相手様から非常にぜひ購入したいという意向をお持ちのようです。それと、当然鑑定価格ですか、その辺もおおむね御承知したところでの申し出になるものですから、こういう形にさせていただいておりますが、最終的にこれもう売ります、買いますの契約ですから、最後嫌と言われる可能性が全くないとは限りませんが、今のところ強い意向を受けておるところです。

以上です。（13番神近勝彦君「そやけんが、不動産鑑定業務は幾らなんですか」と呼ぶ）分筆の分と鑑定業務、トータルで出して、ちょっと事務室のほうには資料を置いておりますが、手元まではこの内訳資料まで持ってきておりませんので、早急に資料を取り寄せまして、途中でも答弁させていただきたいと思います。

○議長（太田重喜君）

神近議員。

○13番（神近勝彦君）

とりあえず別にいいですが、園田議員さんも言われてましたけども、やはり心配するのが、金額を提示したときに向こうが購入をしないと言われたときのことを心配してるんですね。これだけ、言い方悪いけど68万円の費用をかけて、分筆もした、鑑定もしたという状況で向こうが購入をしないということになれば、これ丸々損するわけですね、はっきり言って。ですから、まずは鑑定業務を先にやられて路線価あたりははっきりとこういう値段になりますからどうしますかということで確認をとられてからの分筆という方向であるなら納得ができるんですよ。だから、そういう方法で多分やられるとは思いますが、そのあたりをちょっと御確認をしたかったものですから。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

お答えをいたします。

それは当然鑑定業務が先になるかと思えます。そして、それで大体の売買価格出ますので、最終的にはその価格をもって相手の方がオーケー出されるか嫌ですよと言われるかわかりませんが、今のところ先ほど申したとおり強い意向を持っておられるということで、正式に買い受け申し込みが提出をされておるところです。

それと、先ほど途中分筆登記の業務委託料がどれくらいかということですが、見積額で37万8,000円というふうになっております。

以上です。（13番神近勝彦君「どっちがですか」と呼ぶ）37万8,000円、これ土地分筆登記業務のほうです。（13番神近勝彦君「分筆登記が37万円」と呼ぶ）はい、378です。

以上です。

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。平野議員。

○16番（平野昭義君）

138ページ、企業誘致費のところですね、ここに賃金、旅費、需用費と、わずかな金額が上がっておりますけど、この中の仕事の内容ですね、例えば職員さんが何か採用されるのか、それから旅費が38万5,000円出ているけど、どこにどういうふうに旅費を使うのか、それから需用費はこれはいいですけど、県の工業開発推進協議会があっておりますが、これはただ負担金なのか、それともこれに参加していろいろ話を聞いてこられるのか、とりあえずそれだけ一応。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

企画企業誘致費、本年度予算額54万5,000円の分に係る賃金、旅費、需用費、負担金補助及び交付金ということでございます。賃金につきましては、以前塩田町土地開発公社が開発した地域の草払いを夏場に職員で二、三日かけてやっとなった分についての職員さんをお願いしてやりたいということをお願いしている分です。

それから、普通旅費につきましては、企業誘致関係での行動旅費ということで計上しております。

消耗品費については、通常の消耗品でございます。

負担金につきましては、県工業開発推進協議会に加入しておりますので、嬉野市の負担金2万6,000円ということでございます。

以上です。

○議長（太田重喜君）

ようございますか。（16番平野昭義君「いや、今の負担金の内訳、何かそこに参加して話を聞いてくるか何かで、講演会か何か、ただ負担金なのか、それとも協議に入るのかね」と呼ぶ）企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

県の工業開発推進協議会という組織が県内の市町の構成でできておりますが、ここで例えば企業の視察とかあるいは研究会というのが年に1回程度開催されてると思いますので、そちらのほうへ参加するとかということでこういった負担金を出してると思います。

○議長（太田重喜君）

平野議員。

○16番（平野昭義君）

私はこの目を見て、企業誘致費のところの今年度と前年度100万円以上減額といたしますか、少なくなっております。今言われた行動費が38万円幾らありますから、また活動が始まるかなというふうに感じますけど、去年のんとはちょっと見てみましたら、その中で測量費が283万5,000円で委託されておりますけど、その推進、結局、委託はしたわ、測量はしたわ、その後どうなっているのか、これ私心配したことがあったわけですよ、きのうおととい、うちの近くの人が今まで同意をして判を押したと、その中の人が売りたいかけんがというごたあ話で、幾らばかりしようかというた私、相談があったので、私はちょっと待ってくださいと言うてちょっととめているわけ、というのは余りにも長くなれば、それはそういうようなことがあちこちあれば、あと收拾つかんことになって市の信用も失うて、それから仮に次に買うた人が悪か人でもおれば、全く了解せんと同意せんと、そういうせっかくの企業誘致計画が何のためにしたのかというふうになりますけど、それについて去年測量された285万円の後々の流れですね、周辺の人の話は別として、その中だけ7丁の中だけちょっとわかった範囲で知らせてください。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

今、委託料の件で御質問だったかと思いますが、昨年というよりも平成20年度事業で久間工業団地の地域の測量等の計画等の委託の部分かと思っております。そういった結果を受けて21年度地域に出向きとか、そういった形に利用させていただいていると思います。一般質問でもお答えしたかと思いますが、その後の進展がなかなか進んでおりませんので、再度22年度はこのことについて推進をしていきたいと考えております。

○議長（太田重喜君）

平野昭義議員。

○16番（平野昭義君）

当初の計画やったら26年度は全部造成完了と、26年度か25年度だったかと思います。私は図表を持っておりますけど、そういうふうな今のような推進でいけば、これはちょっと無期限というかな、結局嬉野市に人口が足らんから定住促進とか云々と言いながら、企業持ってこないかんと言いながら、全くたったの年間で54万5,000円の何かばかげたごと予算に、今言ったように地権者がそういうような売りたいと出てくれば、非常に後々問題出てくるわけですよ。今のところ約40人ぐらいおられましょうか、そういう方々はいつか言ったようにいつでしょうかって私に催促のあったりしますが、しばらく待ってくださいという方法しかなかとでしようが。それ持ってきてね全く進まんやったら、そういうふうな不満と憤りが、今度はいざ開発をする段になったら反対に回るという懸念もあるわけ。おまえたちががんしたけんやらんじゃと、例えばね、ぐるいのほうの、隅のほうはいいでしようけど、真ん中の人がそうやられたら、どがんなこともされんでしようが。井上課長、それから市長にもお願いばってんね、お伺いばってんが、このことについて嬉野の発展はもちろん温泉も大事かです、しかしこれは決めた企業誘致の話でしようが、取り組みについてももう少し積極的にしてもらわんと崩壊しますよ、崩壊したら、その責任とれますか、市長にお願いします。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

できるだけ早く周辺の方の了解をいただいて、いろいろ農政局あたりにも許可をとりたいというふうに考えておりますので、そういう情報につきましては、また私どものほうでも担当も確認すると思っておりますので、ぜひ御協力をお願いしながら進めていきたいと思っております。やはり周辺の方、地権者は別にして周辺の方が御理解いただかないことには、なかなか進めていけないものですから、引き続き努力をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

市長の答弁どおり、担当課としても推進していきたいと思っております。（16番平野昭義君「はい、お願いします」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

そのところでなんですけれども、昨年度企業誘致支援員謝金ということで108万円計上  
がされて、今年度についてはその分が計上されなくて臨時職員の8万3,000円だけ計上がさ  
れてるわけでありまして、これについては昨年度この108万円を使ってどのような動き、  
結果というものが出ているのか、そして本年度そのことについて計上されなかった理由につ  
いてお答えをいただきたいと思います。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

嬉野市企業誘致支援員設置要綱に基づいて支援員さんの公募と申しますか、募集につい  
ては東京のほう、大阪の関東、関西のほうのふるさと会等に出向きましてお願いをしてまい  
りました。また、福岡会のほうでもお願いをしてまいりました。実際言ってふるさと会のお話  
の中では手ごたえがあったような気もしておりましたが、実際これ私がやってというような  
ことがなくて、補正予算時まで実際一人もいらっしゃいません。ということで、私たちとし  
ては一人でもとは考えておまして平成21年度予算の減額はしておりませんが、現在のところ  
全く未執行でございます。そういったことで平成22年度当初予算についてのことで0とい  
う形になっておりますが、我々としてはその設置要綱に基づいて積極的にやっていただきたい  
という方がいらっしゃるということであれば、ぜひお願いしたいと、補正予算でお願いし  
ながらでもお願いしたいと考えているところでございます。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

実は今おっしゃるように、私も3月補正を見、そして今回当初予算で労働費を見ながら探  
したんですよ。でも、今回当初予算に労働費でも上がってないし、そして補正予算でもそん  
な形跡ないし、だから落ちてなかったからそれなりの成果があったのかなということでお尋  
ねをしたんですよ。結果、今お聞きすると、そういうことだと、それじゃ果たしてその  
108万円は何だったのかと、じゃこのことについて本当に積極的なアプローチをされたのか  
どうかということについても甚だ私は疑問に思わざるを得ないんですよ。今課長がおっし  
やるように感触的にはよかったで済む話じゃないんじゃないですか。当然予算計上しててこ  
れでやっていこう、企業誘致のためのいろんな人も探しながら、それなりの動きをしよう  
ということで昨年度当初予算に計上されたわけですから、私は全く予算を完全に消化しなさい  
という意味で言ってるんじゃないかと、やっぱりある意味じゃ去年の施策の目玉みたいな形  
でこれも上がってるわけですよ。だから、余り深くといってもあれなんですけども、非常  
に私はここら辺についても腑に落ちない気持ちがしてなりませんけれども、市長いかがです

か、このことについて。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私も各地区の会長さん等も相談しながら進めてきたわけでございまして、ぜひ協力をいたしますからというようなこともございまして、大会等におきまして説明もさせていただいたわけでございます。担当申し上げましたように、終わってから向こうの事務局というか係の方とも連絡をとり合ったりして、とにかくみんな何とか協力するからというふうな意思ではあられたわけでございますけども、こういう景気の中に具体的にまだなかなか成約できてないというようなこともございまして。しかしながら、私としては引き続きせつかくのネットワークですので、お願いをしていきたいなとは思っておるところでございます。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それじゃ、そのことは今後やっていただきたいということを要望しておきたいと思うんですけども、じゃこの108万円ね、債務負担行為にも上がってないんでしょう、今回、今から例えば東京、大阪に行って、これできます。できないでしょう。当然私はこれ今すぐ事業をどうのこうのすることじゃないわけですから、3月の今回の議会前に債務負担行為にでも上げとくべきじゃなかったんですかね。確認だけしときます。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

企画企業誘致課としては、これから募集するというので、債務負担行為については検討しておりませんでした。実際そういう方が出てきた時点で、例えば7月からお願いしたいとかというふうなことで6月補正とかで対応させていただきたいということで考えておりました。

以上でございます。（17番山口 要君「いいです、もう」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

135ページ、使用料、委託料も含んでるんですがパーキングシステム、資料でいきますと5ページになります、この資料の内容を見ると、第1駐車場の旧型機械を撤去して第2駐車

場の既存施設、そこに第1駐車場の分を移設するというふうに記述をされてるわけですよね。これでいくと、第2駐車場についてはパーキングのシステムそのものがないように私は受け取るんですが、このあたり第2駐車場はどうなるんですかね。

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

お答えをいたします。

パーキングシステム、その下の使用料及び賃借料の中のパーキングシステムリース料で新型を150万円程度お願いをいたしまして新しく入れる予定でございます。

以上です。（13番神近勝彦君「リース料の中に入っているということ、リース料の中に150万円ですか」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

リース料が318万8,000円ありますけど、その中の156万円を予定しております。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

はい、わかりました。

そしたら、今度新規のリース料を入れても逆に昨年度よりも安くなってるんですけども、今回新たに入れられるんですよね、第2駐車場に入れられるシステムというのが、そしたらリース料そのものが安いと考えていいんですかね。あくまでもこれは契約前の当初予算比較ですんで、実績の契約がどうなのかというのは私はわかりませんが、22年度が329万3,000円で計上されてるわけですよ。今回318万8,000円ですから、若干安くなるんですよね。だから、新規で結局古いやつをなくして新しくとすれば、リース料が高くなるというふうな頭があったもんですから、それでいくと逆なパターンなもんで安かったのかなという気がして、その部分だけ御確認をしたいと思います。

○議長（太田重喜君）

支所総務課長。

○総務課長（支所）（坂本健二君）

はい、そのとおりでございます。（13番神近勝彦君「はい、わかりました」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。山口忠孝議員。

○2番（山口忠孝君）

予算書の143ページ、新幹線嬉野温泉駅周辺施設整備詳細計画策定350万円、これは全部業者に委託ということですかね。

それともう一つ、その下に新幹線を活かしたまちづくり協議会の40万円、これは協議員で全部計画は業者に任せて市独自の意向とかなんとか、そういう意見とかそういうのは全然入っていないんですかね。どういう形で。

**○議長（太田重喜君）**

新幹線課長。

**○新幹線整備課長（須賀照基君）**

お答えいたします。

13委託料の新幹線嬉野温泉駅周辺施設整備詳細計画策定と、これは一応主要な事業説明書23ページに書いておりますが、これは基本的に業者のほうに委託、今新幹線を活かしたまちづくり協議会、これにつきましては、うちのほうで各団体、また農協、旅館組合、商店街協同組合、また茶商とか窯元組合とか、いろんな業界、青年団まで入れまして23団体で協議会をつくっております。23団体の下に部会を設けております。その部会の中で4部会に分けて協議を行っております。その協議の中にこの業者さんも入って一緒に検討して、その部会の意見をまとめていくというふうな格好になります。20年度で基本構想を一応つくっております。21年度におきまして基本計画をつくっております。まだでき上がっておりませんが、これをもとにいたしまして今度詳細計画というような策定になるものです。

以上です。

**○議長（太田重喜君）**

いいですか。（13番神近勝彦君「関連」と呼ぶ）神近勝彦議員。

**○13番（神近勝彦君）**

済みません、ちょっと予算書と外れるかわかりませんが、議長がとめられるかどうかわかりませんが、この新幹線整備課、今回整備詳細計画策定という予算上げられてますよね、350万円、これについては理解をするわけですよ。ところが、この計画の策定をする中で、課長にお聞きしたいのが、これをするときには極端に言うたら農林課あるいは建設課、そのあたりの連携というのが私はかなり絡んでくるものと思うんですけども、そのあたりどうなんでしょうか。

**○議長（太田重喜君）**

新幹線整備課長。

**○新幹線整備課長（須賀照基君）**

お答えいたします。

この今まず基本構想、基本計画、またこの詳細計画という段階におきまして庁舎内検討会というものを設けております。その庁舎内検討会の中に建設課、都市計画、また農林関係か

ら財政関係まで一応入って検討会をしております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

21年度までは、私はまだ企画段階であったから今の所管の企画部局の中で活動されてることに関しては問題なかったと思うんですよね。ところが、もう今年度から詳細計画、もう翌年には実施計画というふうにならずずっと実務のほうに向かっていってるわけですよね。その実務計画をつくるに当たっては、今言われたように庁舎内の会議の中で農林課、建設課、都市計画課、財政課は財政課であるでしょうけども、この大きな3本柱が連携をしなければ、極端に言うたらこの計画そのものが成っていかないというふうな気を持ってるわけですよね。そこで、市長にお尋ねをしたいのが、現在のところは企画の所管の中でこの新幹線整備課というものがあるわけなんですけども、実質的にも実務のほうに移っていく以上は、これは新幹線整備課は産業建設部局のほうに移していかなければ、本来の職員の連携がとれていかないんじゃないかなと、今先ほど課長のほうから検討会と言われましたけども、やはり一緒の部局の中であれば、もっと連携がとれるんじゃないかなという気がするんですが、そのあたりの部編成についてはどうお考えですか。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

これはもう以前お答えをしたとおりでございます。そのように考えておきまして、また私どもも本年になりましてから総務を中心に組織検討委員会というのを立ち上げておきまして、人数は減っていくわけでいろいろできませんけども、そこを踏まえて次回の組織変更ではそのことをお願いしようというように考えて、既にもう計画はつくっておるところでございます。

以上でございます。（13番神近勝彦君「はい、いいです」と呼ぶ）（17番山口 要君「関連」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

その新幹線で一般質問みたいな形になりまして非常に申しわけないんですけども、こういう形で進んでいく中で、今新聞紙上ににぎわわせているFGTについて在来線特急を運行させる検討に入ったというふうな記事を目にしておりますし、県議会等でも問題になってるよ

うでありますけれども、それによりますと、国交省は在来線特急で最高となる時速200キロで新車を走らせ時間短縮を確保したい考えというふうに報道がされております。そこら辺についてもう一つしてありますのは、開発を断念した場合、国交省は長崎ルート全線を在来線の線路幅とする方針ということ、それで整備線は現状のまま続けて、線路幅のみ在来線のやつとかというふうないろんな記事が載ってるわけですよ。そこら辺、今市長がおわかりのところまでどこら辺までこのことについて承知おきされてるんですか。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

報道についてはすべて承知をいたしておりますけれども、実は同じことが県議会のほうでも質問等でも出ておまして、県会のほうでも答弁等はあるしております。逐一報告もしておりますし連絡を受けておりますけれども、フリーゲージトレインにつきましては御承知のように既に基本的なクリア段階270キロにつきましては確保できたということでございまして、本年の夏をめどにもう一回国交省の審査を目的とした最終的なチェックを行うというふうになっておるところでございまして、ぜひ私どもとしては計画どおりに完成をさせていただきたいというふうに思っておるところでございます。また、県のほうもそんなことで、問題はスピードのところは一切もうクリアをしとるわけでございますけれども、在来線の部分におけるカーブのところでの車体本体の風圧とか、それについての課題があるということで、今本体自体を軽量化しようということで、その結果が夏には出るというふうに聞いておまして、多分大丈夫だろうというふうなことになっておるようでございます。先日の長崎県の発表でも、私どものところを利用して、長崎のほうはフルというふうに聞いておりますけれども、フルにつきましてもフリーゲージを利用したフルというふうなことで計画をしておりますので、今そのようなことで進んでるというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

今市長そのようにおっしゃいましたけれども、昨日の徳光さんの、一昨日か、徳光さんへの答弁ではそういうことじゃなかったみたいですよ。やや危惧をしているというふうなたしか答弁されてると思うんですけれども。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

きのうの答弁のあれもいただいておりますけども、危惧をされてるというか、心配してるというような発言があつてるといふことですが、要するに間に合うようにしていただきたいといふことで心配をしてるといふふうな答弁だろうといふふうに思いますけども。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それで、本当に嬉野はそこら辺もう一番大事な問題だと思うんですよね。これがF G Tになるのか、あるいはもう特急になるのかによって大きな違いが出てまいりますし、そこら辺は逐一いろんな形で情報をし、そして国に対しても県と一緒に交際していただくようお願いをしておきたいと思っております。

○議長（太田重喜君）

答弁は。（17番山口 要君「いいです」と呼ぶ）ほかにございませぬか。神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

137ページ、サガン鳥栖交流、これについて全般について、資料の10ページにありますが、今回委託料として105万円上げられております。内容の中で、これは物産展の開催ということで上げられてるんですけども、以前も昨年度までも物産展は若干やられたと思うんですよ。今回規模もこれだけ上げたということは、充実をさせたいという気持ちの中でやられてるのかなと、それともただ回数がふえるだけなのかなと、どっちなのかなという感じがするんですが、いかがですか。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

サガン鳥栖交流事業の消耗品費5万円、物産展商品、MVP商品ということです。これにつきましては、嬉野DAYということでホームゲームで嬉野市の招待等あるわけですが、その際のハーフタイム時のイベント等の中の参加賞等の商品ということで考えております。そういった使い方でございます。参加賞とか、例えば今年度の場合はお茶の1,000パック等を出したりしております。

○議長（太田重喜君）

ようございませぬか。神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

ちょっと不明瞭なんですけどね、そしたらここに上がっている消耗品だ、物産展の商品とか

MVP商品というやつが多分そのハーフタイムの商品であろうという気がするわけですよ。だから、それは昨年度もやられていると思うんですよ、ずっと、このサガン鳥栖のこの予算がついてからはですね。私がお聞きしてるのは、委託料として今回105万円予算を組まれてるところでお尋ねしてるんですよ。だから、嬉野DAYということで結局昨年も予算を組まれていたけれども、今回はまたふやしていらっしゃるので、嬉野DAYというその企画の回数が結局昨年度よりもふやされる予定なのか、それとも内容的にもっと充実をさせようということで予算を多くつけられたのか、ちょっとどちらなのかなと思ってるんです。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

申しわけございません。答弁に誤りと申しますか、その部分について答弁しておりませんが、昨年度は52万5,000円ということをお願いしとった分にこの倍になってるわけですが、実は昨年度も同じ105万円と申しますか、その事業費で嬉野DAYを開催していただいております。ただ、うちのほうの予算として計上した分はその半額でございまして、あとの半額につきましては、この企画をお受けいただいている企業さんのほうが市内の旅館さん、ホテルさん等へ協賛金をいただきながらやっていただくというようなことでやっていただいておりますので、うちのほうが半額の負担でよかったわけですが、なかなかそういった企業さんへの協賛金等の集金と申しますか、そういった部分が大変苦しいので、平成22年度については市で持っていただきたいというようなことで今回予算をお願いした次第でございます。（13番神近勝彦君「なるほど」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

よかですか。（13番神近勝彦君「はい、いいです」と呼ぶ）（17番山口 要君「関連」と呼ぶ）山口要議員。

○17番（山口 要君）

それで関連です。今そのことも納得しました、52万5,000円が100万円になったということで、これは要するに値上げ要求に対してオーケーしたということで、単純な言い方すればそういうことですね、結果的には。今まではほかの者が面倒見てくれてた分をこちらでしてくださいということで。市長にお尋ねしますけれども、52万5,000円ぐらいまではと言ったら語弊になりますけども、105万円を市が予算として出して、その分の効果というものはあるんですかね。そのことについて、投資対効果についてどうお考えになります。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

先日も参加をさせていただきましたけども、非常にサガン鳥栖さんの交流事業といえますか、世代が非常に広がってきていい形になってきたというふうに思っておるところでございます、うちのPRだけではなくて、健康づくりにも幅広い意味で御協力いただいているというふうな意味では、成果としては上がってきてるんじゃないかなというふうに思っておるところでございます。そしてまた、非常に厳しい面はあるとは思いますが、サガン鳥栖さん自体が頑張っておられますので、その頑張りぐあいといえますか、そういうのに乗じてうちのほうのPRができればというふうにも考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

それじゃ、この105万円については、嬉野DAYのみではなくして、そこら辺の要するにサッカー選手たちが来て健康指導教室等をしてくれるそこら辺も含めおいた形、考え方としては含めおいた形での105万円ということで理解をしいんですかね、私はそのようにも理解をしたいと思いますが、単にあそこの場所で嬉野DAYでやって105万円投資するのは余り大き過ぎるという意味で私は御質問したわけですので、そういうふうに理解したいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

嬉野DAYの費用105万円の内容でございますが、嬉野市という冠を内容的にはピッチの看板とか場内放送とか始球式の参加券とかMVP賞の授与券とか、あとレギュラー席の……（17番山口 要君「それはわかってる、だからそれはその分に対して投資対効果があるのかということだけを言ってるんです」と呼ぶ）一応そういうことで効果的には嬉野市に来ていただいているという効果は目には見えませんがあってるかと思えます。（市長谷口太一郎君「ちょっといいですか」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

即効性というのがどれくらいあるのかというようなお尋ねでしょうけども、子供たちが参加をしてやはり生き生きとして前座試合等に出してくれるわけでございます、そういう点を見ますと非常に子供たちのためにも役立っております、一つのスポーツ振興というふうな意味でも成果としては上がっておると思いますが、ぜひ上げていきたいというふうに考えて

おるところでございます。

以上でございます。（15番西村信夫君「関連です」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

今山口要議員の質問に関連しますが、サガン鳥栖交流事業ということで、本市はそういったことで18年11月から締結をして実施されておりますけれども、県内においてサガン鳥栖の交流事業をしておる市町村は何件ぐらいあるのか、その点お尋ねしたいと思いますけど。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

神崎市吉野ヶ里町というところが冠マッチをやっているということでございます。

○議長（太田重喜君）

西村議員。

○15番（西村信夫君）

神崎市吉野ヶ里ですかね。あとは交流事業やってないというけれども、このサッカーのこの交流事業についての主な趣旨というものは、サッカーを通じて健全な青少年の育成を図るというようなことですが、この取り組みに当たっての使用料、賃貸料ですかね、このイベント参加にバスを提供されておりますけれども、これは何回実施されておるのか、その参加者の状況はどうか、その点お尋ねしますけど。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

冠マッチ嬉野DAYにつきましては、1回でございます。参加者につきましては、本年度は大草野小学校の児童で約35名程度だったと思っております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

鳥栖まで嬉野から1回で高速使っていかれるかいかれないか、それはわかりませんが、18万8,000円というようになってるんですけども、そのバス代が18万8,000円も恐らく当然今は現状ではかからないと思っておりますけど、そのほかの予算については健康教室会場借り上げ料に使っていただいたわけですかね。この18万8,000円の内訳についてお尋ねしたいと思います

ます。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

お答えします。

18万8,000円の中身でございますが、高速道路の使用料、それから貸し切りバスの借り上げ料ということで13万8,000円、残りの5万円が健康教室会場借り上げ料でございます。

○議長（太田重喜君）

質疑の途中ですが、ここで15時45分まで休憩いたします。

午後3時29分 休憩

午後3時43分 再開

○議長（太田重喜君）

それでは、休憩前に引き続き議案質疑を続けます。

ここで先ほど答弁ができなかった、準備ができていなかった企画企業誘致課長のほうから答弁をお願いします。企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

失礼します。

先ほど織田菊男議員さんの御質問の中で廃止代替バス路線における補助基本額とはということで答弁ができなかった分について答弁申し上げます。

まず、この補助基本額と申しますのは、県の補助の基本額でございます。県の補助率が2分の1ということで、この補助基本額の2分の1が市のほうに入ってくるということでございます。その積算の方法でございますが、実車走行キロ掛けるの補助単価ということで、29人超のバス車両で乗車率が1.0以上について107円34銭という数字を掛けます。それから、乗り合いタクシー及び乗車率が1.0未満の29人超バス車両については50円50銭を掛けるということで、先ほど申しました祐徳バスについては補助基本額が265万7,000円、再耕庵タクシーにつきましては18万1,000円ということで、この2分の1が県からの補助金として市に入ってくるということになります。

以上で織田菊男議員の御質問にはお答えいたします。

なお、先ほどサガン鳥栖の件で使用料及び賃借料、貸し切りバスについて12万6,000円と申し上げましたが、これは2台分でございます。

○議長（太田重喜君）

ほかに質疑はございませんか。山口忠孝議員。

○2番（山口忠孝君）

142ページ、男女共同参画事業費、1、報酬、この辺の会議があるのはもうずっとわかる

んですけど、13委託料で女性・子ども・家庭支援センター370万円、これはどんな内容でしょう。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

女性・子ども・家庭支援センターですけども、昨年7月に嬉野市男女共同参画を進める会のほうに委託業務としております。この委託業務の内容は、DV相談と子育て相談、それから事務局の部分をお願いしております。非常にDV関係については嬉野市につきましては国、県よりもアンケートの調査によって非常に高い数字が出ております。そういった中でなかなか行政にDVの相談件数は今までは少なかったというようなことで、7月から委託をして1月の末まで延べの75件のDVの相談があっている状況でございます。そういったことをお願いをしている事業でございます。

以上です。

○議長（太田重喜君）

山口忠孝議員。

○2番（山口忠孝君）

これは家庭支援センターって、これ建物か何かのあれですか。場所があるんですかね。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

女性・子ども・家庭支援センターについては、支所の裏の3階のほうで事務局があります。

以上です。

○議長（太田重喜君）

山口忠孝議員。

○2番（山口忠孝君）

これは市長にお聞きしたいんですけど、この事業はずっと合併以降の継続事業ということで毎年こういう昨年も同じ金額の予算を組んでおられますけど、その前年度はわかりませんが、またこれは多分これからもこういう事業は毎年続けていかれると思うんですけど、男女共同参画の効果じゃないですけど、目に見えて効果が出るということはないと思いますけど、そういう継続していつてこの事業のありようが毎年毎年同じようなことを委員さんたちの協議委員会の話とかなんとか、そういうのをするだけで終わっているんじゃないかなという気がするんですけど、いかがでしょうか。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

今までは議員御発言のようにこれを設置しないまでは男女共同参画の週間あたりでいろんなイベントとかやってきたわけでございますけども、そのイベント自体は非常に単発的でございます、これでも今は継続してやっていただいておりますけども、今回の部分につきましては今一番心配されておりますDVですね、DVとかそれから子供への虐待とか、そういうものを少なくしていこうというのが一つの目的として設立をされたところでございまして、これも行政がやる部分とそれから民間にお願いしてる部分と両方あるわけございまして、ここの部分は民間の団体をお願いをしてるということでございまして、今担当課長申し上げましたように、たくさんあってはいけないわけでございますけども、設置以降70件程度のDV相談もあってるということでございますので、できるだけ少なくなっていけばいいわけでございますけど、当面は継続してやっていかなければならないというふうな状況だろうと思っております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

ほかに質疑ありませんか。園田浩之議員。

○9番（園田浩之君）

関連で言えばよかったですけども、新幹線ですが、新幹線を活かしたまちづくり協議会、昨年が45万円でことしが40万円で5万円減額になった理由と、去年どのくらい協議会が開かれ、どのような話し合いがなされたのかちょっと示してください。

○議長（太田重喜君）

新幹線整備課長。

○新幹線整備課長（須賀照基君）

新幹線を活かしたまちづくり協議会の協議会自体は1回ですね、部会のほうを3回開いております。去年45万円で40万円に下がっておりますが、これは20年度が50万円から5万円落としております。また、今回また5万円ということは、95%、95%というような格好で落としていっております。内容でございますが、部会に分けてございまして、観光・健康・食文化部会はその嬉野の新幹線を活かしたまちづくりという形で駅からのアクセスとか、また食のほうでは例えばよその何か新たな食をつくっていかんばいかんとじゃなかかと、そんないろんな部会の中でお話をさせていただいて、またこの基本計画のほうに生かしていきたいということで、そういう話し合いをされております。また、広域連携部会の中では広域交通のほうで検討をされております。また、情報発信まちづくり部会のほうでは、新幹線を活かした

んな情報発信をしていけばいいか、温泉、また長崎街道等を生かした情報発信をしなくちゃならないというような格好でお話をされております。また、今回の基本計画の中では町民へのアンケートもとっておりますし、そのアンケートを議題にお話をされたら、また来訪者ですか、来客ですね、旅館さんをお願いをいたしまして来客、来訪者にもアンケートをしておりますし、また交通機関にもアンケートをとっております。そういうふうな題材を生かしまして、また各部会で検討がなされていると。そのまとめといたしましては、基本計画が今年度でき上がりますので、去年も基本構想に関しましては5月に全協のほうでお示しをいたしました。今回の基本計画のほうも多分5月程度に全協でお示しができるものと思っております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

ようございますか。

ほかに質疑ございませんでしょうか。小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

146ページ、コミュニティセンター費のクスノキ管理ですけれども、今現在みゆき公園にクスノキが移されているということで、これ状況的に今どうなってるか、実際また楠風館に戻せるような状態なのか、それをお尋ねします。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

クスノキの管理ですけれども、今現在は非常に新しい芽も出て元気になっております。しかしながら、業者の話聞いたところ、今せつかく根づいたものを、また楠風館に移植をすれば非常に無理が来ると、反対に今の楠風館自体の土質とといいますか、土壌とといいますか、その辺を改良をしないとだめになってしまうというようなことで、当面今のところで管理をしていきたいというふうに考えております。

○議長（太田重喜君）

小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

状態がいいということなんですけれども、ある詳しい方の話ですと、まず大きいああいう楠風館の木で今課長がおっしゃったように今の状態がよくてまた移せばどうなるかわからないということで、また移ったときに大分負担がかかるんじゃないかと、本当に戻せるのかということと言われる方がいらっしゃいました。そういう状態で、はっきりもう移すか移さんかというのはまだわからない、移すだろうということでコミュニティセンター費でこの管理

費というのが計上されてると思いますけれども、もし移せないという場合というか、もう結論が出た場合は、もう普通の公園の通常の樹木の管理費なんじゃないかなと思います。結論は今でもそれでも恐らく移せるんだらうという判断なのかお尋ねいたします。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

現在、業者さんのほうにこの新年度予算のときに対応してどうかと聞いたところ、あと一、二年ぐらいは管理をしたほうがいだろうというような意見でした。あと楠風館に戻した場合は、楠風館を今埋め立てたもんですから、水位が上がってきていると、そういったところではなかなか植樹というのは木が育ちにくいということで、もしもほかの木を植えるにしても、やはりその分を改良しなければここには育たないだろうと。前はあれから大体1メートル80か1メートルぐらいのところで地盤があったもんですから、そこそこ成長したんですけども、あそこを埋め立てた関係で水位が上がってきたと、そういったことで、なかなかそこでは育ちにくいだろうという診察を受けております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

わかりました。大体楠風館のクスノキに対するお金というのは大体どのくらいかかっているか、結構な額がかかっていると思います、先ほどの話を聞くと、やっぱり移してもどうかという不安も見れるわけですけど、これは恐らく大丈夫だろうということで移して、結局その木がだめになったというたら、そのお金が何にもならんかなあと思うわけですよ。そういうことを考えた場合は、もし100%生き返る、楠風館に持ってきてまた生き返るということは100%ということはないと思いますけれども、どっかで判断をしてから、また楠風館と名前がつきながら何もない状態ですので、そういう面も考えていただきたいと思います。総額は大体合併後に移すときに幾らぐらい、全部で、今までの管理料までわかれましたらお答えください。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

このクスノキの移転は、ちょっと正式な数字は今のところ持ち合わせておりませんが、300万円から350万円ぐらいかかったんじゃないかと、クレーンとそういう移植するのについて、その点についてちょっと詳細を調べてみます。（16番平野昭義君「関連です」と呼

ぶ)

○議長（太田重喜君）

平野昭義議員。

○16番（平野昭義君）

今の楠風館のクスノキについて小田議員のほうからもお話あっておりますように、これは大体新しい議員の方、嬉野の方は特に御存じじゃないと思いますけど、あそこは瀬頭本家という酒造の昔からあった会社で、そこに樹齢もう200年ぐらいになりましたかね、とにかく立派な木でありました。そいぎ、私がちょうどコミュニティセンターをつくる時分に市の職員に担当の方にも言うておりました。ここは少し下がったところにあるから、水分が多いですから、ちゃんと水管理をして、樹木医と相談してコミュニティセンターをつくらんばいかんですよと言うておりましたけれど、これは聞く耳もあつたか知りませんが、ブルドーザーがどんどんどん入って、結局固まってしまつて根腐れしたつていいですかね、それで1年ばかりしたところで葉が黄いなくなつてきて、それでもうどうもこうもできんということ、みゆき公園の裏のほうに今移植してありますですね。そいぎ、今言われたように果たしてそれがもとの姿に戻るのかというともう、何せ人間で言えば老人ですから大変と思います。ですから、それについては、場合によってはあれに似たような木があれば、毎年毎年10万円ずつぐらい維持費をやるよりか、どっかに世話する人がおれば、もとの楠風館とついた由来は、あれは「楠」はクスノキですもんね、漢字が、ですからあれがクスノキがなかったら楠風館名前も変えんばいかんごといなつ。本当言えば、そういう意味ではいかがでしょう、担当課または市長の御意見をお願いします。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

確かに今言ったように今の現状から今の楠風館は大体80から1メートル上がつております。今のクスノキがそのままの状態での、そのときかさ上げをしてあつたらばわかりませんが、そのままの分でこの埋め立てた関係で水位が上がつてきたと、そういったことを今後改植する、新しい木をつくる上にはその点を改良していきたいと思つたので、今後検討をしていきたいと考えております。

以上です。（12番織田菊男君「関連」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

織田菊男議員。

○12番（織田菊男君）

私はその楠風館の地元でございますが、今のところクスノキの関係で一般の人から話を聞

いたことございません。ほとんど聞いておりません、現実には。やはりクスノキの場合は葉が落ちると屋根に、樋のほうに葉が詰まるわけです、その辺もありますし、また何かイベントをした場合、いっぱい車が参ります。車が現実にはその場所ですとめるところもないというような状態になっておりますので、その辺も考慮の上に今後は進めてもらいたいと思います。

また、私は個人的な考えでございますが、それだけの金を毎年10万円のお金をつぎ込んで管理するより、それだけのことはしないほうが、もう普通の一般の樹木と同じような小田議員が言われたような形が私はいいいんじゃないかというふうな考えを持っております。

**○議長（太田重喜君）**

答弁は。（12番織田菊男君「結構です」と呼ぶ）

ほかに質疑ございませんか。神近勝彦議員。

**○13番（神近勝彦君）**

139ページ、情報管理費の中の情報システム全般について、資料の16ページになります。この中でサーバーハウジング料ということで九電の佐賀支店のほうに今度サーバーを利用させていただくというか、置くというか、そういうふうな形であるということをお願いしたんですが、結局九電の佐賀支店に置くことによってどこにどういうふうなメリットが出るのかという点ですね。これ全体的なシステム費の予算計上の中で、どちらかといえばほとんど減に近いような計上になるんですけども、それはこの事業費の修繕料が140万円ほど、また役務費の通信運搬費が40万円ほど減額になっていることによってこのサーバーの226万円の分がカバーできてるような感じを受けるわけです。このあたりがこのサーバーを結局佐賀支店にやることによってこういうふうなメリットが出たんですよということであれば理解ができるんですが、このあたりどうなんですかね。

**○議長（太田重喜君）**

地域づくり課長。

**○地域づくり課長（中島文二郎君）**

お答えをいたします。

今現在サーバーにつきましては2階の印刷のところに部屋を確保しております。そういったことで今回情報ネットワークの機器のリースが切れます。それに合わせてサーバーも環境がいいところに移したいというように思っております。というのが、二、三週間前も夜中に停電があったというようなことでサーバーが動かなかったと、これはいろんな原因もあったんですけども、そういった中でそういった停電によつての停止ですね、そういった中ですれば、やはりSEさんを佐賀のほうから呼んで修理をしなければいけないというようなこともありますし、またこういった施設につきましては耐震も7レベル以上の施設もあるし、常駐の職員さんもいらっしゃるということで、非常に環境の整備が整ったところにサーバーを今回ネットワークの機器が切れるとを機会にお願いしたいということで計上しております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

そしたら、あくまでもその停電関係の保守的な部分のメリットが強いということで理解を  
していいのか、そしたら先ほど1回目で質問したこのあたりの需用費とか役務費関係との関  
連は全くないと考えていいのかですよ。そうすると、どちらかといえばサーバーハウジング  
料、毎年毎年この226万円上がってくるわけですよ。だから、現在のこの予算額というの  
が今までよりも大きくなるというふうに理解をするわけなんですよ。修繕料がたまたま  
22年度は安くなってからいいんですけども、この修繕料によっては上下しますよね、それ  
によっては物すごく予算額が大きくなるというふうな考えでいいのかどうか。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

今回の例えば修繕料とそれから通信運搬費の分とは、この分については関連はしておりま  
せん。そういった中で今情報ネットワーク機器が5年の期限が切れますので、その辺で具体  
的な今の全体の枠は変えなくてこのネットワークの機器で調整をして、その分は今回は同じ  
ようなネットワークのリース料が5年のリースですので上げております。その辺で全体的な  
枠が上がらないような調整をしていきたいというふうに考えております。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

5時までということですので、選びながら質問をしていかなきゃいけないと思っておしま  
すけれども、とりあえず131ページの負担金、第106回九州市長会ということで上がってお  
ります、270万円。これについては、資料見ますと、開催市が270万円、県内負担30万円掛け9  
市ということになっておりますけれども、嬉野でこのような会を催していただくのは結構な  
んですけども、ただ一つ私この分について気になる部分があるといいますのは、これは九州  
市長会については、私が前議長会に出席した折に宮崎の市長さんがおっしゃいましたけれど  
も、九州市長会については奥さん同伴だというふうなことで聞いております。これについて  
はずっとそういう形であっているのか、そしてまた奥さんが同伴される場合、それについて  
の旅費なんかはどのようにされておられるのか、まずその点についてお尋ねをしたいと思  
います。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

九州市長会におきます奥さんが同伴されるかという件でございますけれども、理事会と総会がございますけれども、その折には個人の負担におきまして同伴をされる方もいらっしゃいます、すべてではございませんが。費用については個人で負担されております。（17番山口 要君「嬉野はどうなんですか、嬉野は」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

私は九州市長会毎回出ておりますけど、家内は一回も連れていっておりません。ただ、今回は開催地ですので、ぜひ出すようにというふうなことでしょうから、家内の分は家内の分が必要があれば負担をしなくちゃいかんと思っております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

嬉野の場合、そこで奥さんを連れていっておられないから公費は出していないということで一安心をいたしましたけれども、でも今回嬉野で開催するに当たって奥さん同伴の場合、それぞれ職員の方でそこら辺のことについてもエスコートしていかなきゃいけないと思うんですよね。これはちょっともう一般質問みたいな形になるわけなんですけれども、今どき市長会の総会で奥さん同伴というのが私はどうかと、そこら辺について市長がどうお考えになっているのか、それだけを取りあえずお尋ねをして終わりたいと思っておりますけど。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

嬉野市になりましたから市長会に入りまして、私も町村会するときもいつも言っておりましたけども、そういうことに市長会がなってるということで私が反対いたしましたところ、ほかの市長からひどく反対を受けまして、市長会はそういう慣例になってるというふうなことではございましたので、それ以上は言いませんでしたけども、私はそれを聞いて一切出なかったと、連れていっておりません。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

総務費の158ページの基幹統計費ということでお尋ねをしたいと思っておりますけれども、この基幹統計費という中で基幹統計指導員、調査員というようなことで計上されておまして、昨年は526万円計上されておりますが、ことしは1,018万9,000円計上されておまして、その調査員も昨年は172名というようなことですが、ことしは210名計上されておまして、この多くなった原因と、この基幹統計指導員、調査員のする調査状況はどういうふうな項目を調査をされるのか、これ全世帯に対してされるのかどうなのか、そこのあたりをお尋ねしたいと思っておりますけれども。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

基幹統計費についてのお尋ねでございます。基幹統計費につきましては、平成21年度は学校基本調査、工業統計調査、経済センサス、農林業センサス、それから国勢調査の事前調査等がございました。主な平成21年度の大きなものが農林業センサスでございました。本年度22年度当初予算をお願いしております基幹統計費の主なものは、本年10月1日で実施されます国勢調査でございます。そういったことで本年度の調査は全世帯、要するに嬉野市の人口を調査するという形になります。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

それでは、ことしについては国勢調査というようなことですが、要員が88、嘱託員さんが嬉野では88名ですけれども、これは210名とほぼ倍なんですよね。そういうことで各地区2人ずつが調査あるいは指導員というふうなことで考えてもいいわけでないかと思っておりますけれども、その調査に当たる人の指導員あるいは調査員の方についての研修とか何かあっておるわけですかね、その関係についてお尋ねしたいと思いますけど。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

研修というお尋ねでございますが、基本的に説明会を実施します、調査員さん、それから国勢調査指導員さん等についてのこういった項目について調査をしますということでの説明と調査に当たっての注意事項等を大体1回行っているような状況でございます。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

この調査に当たっての期間はどのくらい期間がかかるのか、去年の1人当たり割ってみますと、1人当たりの報酬が4万8,500円ですね、ことしは、去年は3万円というふうなことですけれども、調査業務が多くなったからこういうふうになったのかどうか、その点と、この調査をされるに当たっての回収はどのようにされるのか、個人情報とかいろんな問題が絡んできますので、そのあたりはしっかりと指導を徹底されると思いますけれども、調査の方法と並びに個人情報に関する問題とこの報酬について、そして期間をどのくらいかかるのか、その点あわせて求めたいと思います。

○議長（太田重喜君）

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長（井上嘉徳君）

まず、調査の期間でございますが、基準日が10月1日ということで、事前準備は当然前からやるわけでございますが、10月1日現在で要するに嬉野市内にどれだけいらっしゃったかということで調査をするわけでございますので、期間的には10月いっぱいぐらいかなとは思いますが、ちょっとまだ示されておられませんのでわかりませんが、ただあとの事務とかもございいますから、期間としては半年近くかかるのかなと思っております。

あと報酬ですね、一応本国勢調査の調査員さんにつきましては、1名あたり4万5,100円と示されております。それから、指導員につきましては8万5,000円という数字が示されております。

以上でございます。（15番西村信夫君「回収率どのくらいですかね」と呼ぶ）済みません、回収に当たりましては、基本的には調査員さんのほうで回収いただくこととなりますが、要するに先ほどおっしゃられました個人情報等の関係で、場合によっては封入してのりづけで出されるということもあるかと考えております。基本的には100%回収しなければならないと思いますが、ちょっと今回回収率とおっしゃられても、ちょっとはつきり100%できているかどうかは昨今の状況ではわからないような状況でございます。

○議長（太田重喜君）

ほかに質疑ありませんか。山下芳郎議員。

○4番（山下芳郎君）

所管で申しわけないんですけども、お許しをいただきましたら質問させていただいていいでしょうか。嬉野市が指定します天然記念物は科目上どの項目に入っていますでしょうか。ちょっと逆質問で申しわけないんですけども。

○議長（太田重喜君）

天然記念物、それは……（4番山下芳郎君「文化財のほうですか」と呼ぶ）社会教育のほ

うでいうなか。（４番山下芳郎君「社会教育のほう」と呼ぶ）今聞かんば。（４番山下芳郎君「それじゃ、その段階でお尋ねいたします」と呼ぶ）文化財や、次文化財やけん、総務やなかろう。（４番山下芳郎君「承知いたしました」と呼ぶ）園田浩之議員。

○ 9 番（園田浩之君）

150ページ、使用料及び賃借料の事務機器仮設電話リース料95万3,000円ですが、去年のが事務機器等とだけ書いて106万8,000円ということになっておりますけども、この等というのが仮設電話リース料も含むのかということをもまず最初にお尋ねして、この事務機器というのはどういうものか、パソコンなんかもろもろのいろいろあるでしょうが、その詳細とリースの期間、いつからいつまでのリースなのかということをもまずお尋ねいたします。

○ 議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○ 市民税務課長（支所）（小野彰一君）

お答えいたします。

21年度の事務機器等の中には、この仮設電話のリース料も含めております。その事務機器、今年度の事務機器の中には、先日まで実施をいたしました確定申告に伴いますそれぞれ2会場のコピー機のリース料等も含めて、あとパソコン等もこの事務機器の中に含めて計上させていただいております。確定申告の期間中のコピー機のリースについては、1カ月のリース契約を、リース契約といいますか……（9番園田浩之君「レンタルでしょう、リースじゃなくてレンタル、1カ月ということは」と呼ぶ）1カ月……（9番園田浩之君「レンタルですね」と呼ぶ）レンタルですね、その契約で行っております。

以上です。

○ 議長（太田重喜君）

園田浩之議員。

○ 9 番（園田浩之君）

それでは、21年度には等で終わって、今回が仮設電話ということになっておりますけど、この仮設ということは、あくまでも仮設でしょうから、これ2年も続くのかなあという疑問が起きるんですけど、これいつまで続くのか、そして先ほど第1回目に質問しましたリースの期間、プリンターは1カ月のレンタルということでしたが、その他のやつの詳細について。

○ 議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○ 市民税務課長（支所）（小野彰一君）

済みません、お答えが漏れておりました。仮設電話におきましても確定申告期間中の1カ月のレンタルでございます。（9番園田浩之君「ああ、全部」と呼ぶ）

○ 議長（太田重喜君）

ようございますか。（9番園田浩之君「今度またゆっくり聞きます」と呼ぶ）ほかに。神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

あと何点かですので、済みません。まず、140ページの一番上、備品購入費として今度パソコン上がってます。これ昨年20年度の3月のときとか、21年度は経済対策で臨時職員用ということでパソコンずっと購入をされてきたわけですね。今回また22年度ということで271万円予算計上されておりますが、この経済対策が臨時職員の分ということで333万円予定をされとったんですが、このときにこの22年度分のパソコン購入ということについては何も論議がなかったのか、そのときはまだここまでちょっと悪くなる可能性じゃなかったのかとか、そういうところはいかがだったのでしょうか。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

昨年の経済対策の中では臨時職員さんのほうで30台と、今回お願いしているのは、中期財政計画の中で合併のときに17年11月に、そのときに大体100台ぐらい購入しております。当初その中で100台一遍に更新できませんので、今年度が5年目に当たりますので20台の更新をして、6年目にあと40台、その次に7年目になりますがそのときに40台というようなことで、この100台の中をまずは5年の分を20台、6年目に40台、7年目に40台という形で更新をかけているということでお願いしております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

そしたら、21年度のときの経済対策が来たときに、若干前倒しの中でこういう購入ということが検討できなかったのかなと思ったんですよ。というのが、3月の補正のときに120万円ちょっと減額になりましたよね、経済対策、ということであれば、そのときできたのかできてなかったのかわかりませんが、せっかく国から使っているよというお金が来たのを戻すわけでしょう。今課長のほうから御答弁あったように、22年から随時パソコンの新規更新をしていくよという計画があるわけですので、若干前倒しの中でせっかくそういうお金が使えなかったのかなという気がしてならないもんですからお尋ねをしてるんです。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

その時点では耐用年数が5年ということになっておりましたので、一応検討はしたといいますが、話をしたんですけども、一応耐用年数は5年と、5年以降の分ということで今回お願いしているところでございます。（13番神近勝彦君「いいです」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

ほかにございませんか。小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

151ページの一番上です、過誤納金還付金500万円の計上をされてますけど、これ何かその内容、思い当たることとか何かあるとですかね、500万円というところが。

○議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

23節の償還金利子及び割引料の過誤納金還付金500万円でございますが、思い当たるということではなくて、これにつきましてはこの還付金が発生したときにこの費目から還付するわけでございますが、この金額につきましてはずっとといたしますか、合併後この金額で当初予算から計上させていただきとるものでございます。

以上です。

○議長（太田重喜君）

小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

あくまでも通常の還付金じゃなくて過誤納金還付金ということで500万円計上されてるんですけど、きのうの中、損害賠償金も同じと思うんですが、あつてはならないことだと思うんですよ、あつてはならないことが具体的に金額まで計上されとるといとは、どういったもんかなと。ちなみに毎年それだけ過誤納金還付金が発生するからということで計上されておるといいますか。

○議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

お答えします。

この還付金につきましては、あらゆる住民税から固定資産税、軽自動車税、その他税がございますが、その還付金の発生する時点におきましていろいろ理由があるわけでございます。例えば法人なら法人の予定納税ということで納税をされております。その分につきまして確定申告をされました後に還付金が発生するということも出てきますので、その分についてあらかじめ予算がないときに還付できないものですから、その分含めたところで計上といたしま

すか、還付が発生しなければ当然予算残として残っていくわけでございます。ちょっと一例を挙げましたけども、よろしいでしょうか。

○議長（太田重喜君）

小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

予定納税の還付金も全部入っるということですかね、この中に。（市民税務課長（支所）小野彰一君「そうです」と呼ぶ）わかりました。（17番山口 要君「関連」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

昨年度500万円計上して9月に30万円、12月に220万円、計の750万円昨年だけで上がっておりますよね。大体500万円の過誤納の中に予定納税というのは大体どれくらい予想をしておられますか。

○議長（太田重喜君）

市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

お答えします。

21年度の実績におきましては750万円という補正までを含めたところでお願いしとるわけですが、この還付金の予定納税といえますか、法人に分につきましては、金額的にははっきりはここで資料持ち合わせておりませんが、3分の2程度は法人の件で還付が21年度発生してると。（17番山口 要君「3分の2」と呼ぶ）はい、3分の2程度発生しております。（17番山口 要君「1、2」と呼ぶ）3分の2です。あと市民税等があります。（17番山口 要君「了解」と呼ぶ）（16番平野昭義君「関連です」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

平野昭義議員。

○16番（平野昭義君）

今、先ほど小田議員が質問されたことについて、私もそういうふうに思いますけど、誤りという字があい中に入っておりますけど、結局何か事務上で誤ったからこういうふうに、そういうふうに受け取られるんじゃないかと思います。しかし、法人税あたりは前もって引当金をやっておりますから、そういうふうな言葉に過納金ということになりましようけど、過誤納というそういうふうな熟語について果たしてそれでいいのかなあと。誤もありますか、やっぱり、誤もあるとですか。（市民税務課長（支所）小野彰一君「誤もあります」と呼ぶ）ありますか。そこが小田議員が質問しよいなとやけん。

○議長（太田重喜君）

ほかに。山口要議員。

**○17番（山口 要君）**

ちょっと細かい重箱でお尋ねをしてみたいんですけども、重箱の隅で、133ページの分の会計管理費、せっかく会計管理者来ておられて答弁することないでしょうから、12節の委託料で通信運搬費、今回9万6,000円新規で上がっておりますし、またもう一つの134ページの分で使用料の分で昨年度事務機器というもうつかみでといいますか、それで57万3,000円上げて、今回あえてリース料と送金システム使用料と分けられたそのことについてをお尋ねをしてみたいと思います。

そしてもう一つ、次に134ページ、これ私どうも不思議でならないんですけども、消防設備保安業務で、後の134ページの分の委託料については全部昨年並みなんですけれども、これが昨年度57万2,000円がことし52万7,000円となっております、これはひょっとしたら数字の間違いじゃないかなという気がしたものですからお尋ねをしてみたいと思います。

**○議長（太田重喜君）**

会計管理者。

**○会計管理者（田中 明君）**

お答えいたします。

役務費、通信運搬費の9万6,000円につきましては、これは今まで市役所全部が各課のほうでは予算がなかった通信運搬費、郵便代でございます。会計課での郵便代といいますと源泉徴収票ですね、これを郵送したいというところでの9万6,000円の計上であります。

次の使用料賃借料の事務機器リース料があえて分けたのはなぜかということでございますけども、昨年までは事務機器で57万3,000円ございました。使用料賃借料、ことしも57万3,000円です。内訳を変えたわけでございます、厳密に言いますと事務機器リース料に送金システム使用料は入らないということで、これは口座振替の関係でファームバンキングを使っております、この通信回線の使用料でございますので、事務機器ではないというところで厳密に分けたということでございます。

以上でございます。（17番山口 要君「わかりました」と呼ぶ）

**○議長（太田重喜君）**

ほかに質疑ありませんか。（17番山口 要君「まだ答弁終わっとらん、まだ答弁終わっとらん」と呼ぶ）財政課長。

**○財政課長（徳永賢治君）**

お答えをいたします。

13委託料の消防設備が昨年57万2,000円で4万5,000円の減ということでございますけども、これ実績に基づくものでございます。

以上です。（17番山口 要君「いいです」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

141ページの委託料、コミュニティ運営管理費の中ですけれども、この委託料の中には事務長さんの報酬が多分入っているものと思うんですね。今回から22年度から5地区やられるはずなんですけれども、この5地区の報酬を各別にちょっとお教えいただいて、トータルが幾らになって、結局委託料の中の人件費を抜いた分の残りはどういうのに使われるのか教えていただきたいと思います。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

お答えをいたします。

13節の委託料のコミュニティ運営管理費の1,117万3,000円ですけれども、5地区があります。久間地区に全体として251万2,000円、大草野地区が228万2,000円、それから吉田地区が228万5,000円、五町田地区が190万9,000円、それから轟大野原地区が218万4,000円ということになっております。基本的にはこの内訳といたしましては、1つの例を挙げてみますと、吉田地区を挙げてみますと、事務局長費が172万5,000円、それから役員報酬ですね、この役員報酬につきましては会長、副会長、会計と部会の役員さんで27万2,000円、ちなみに会長さんが2万4,000円と役員さんが1万2,000円と、その分の予算です。それからあと活動費ですけれども、活動費が28万8,000円という形になっております。この活動費の考え方については、基本を15万円と見て、あとは人口で振りかえをしておりますので、その分の金額で合わせて228万5,000円というような数字になっております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

委託料の中身については大体おおむね理解をしました。ということは、年間活動費としては28万7,000円、今は吉田地区を例として言われたわけですが、どの地区も余り変わらないぐらいの金額だろうという気がするわけですね。ということは、この分、約28万7,000円を各このコミュニティの地区に一応交付をするから自由に使っていいですよという考えでいいのかどうかと、以前からこのコミュニティについてはずっといろんな議論、私どちらかといえばコミュニティについては一番最初の計画から反対だったものですから、余りいい感触を持ってなかったわけですね。というのは、市職員を結局このコミュニティに置くとか何とかというお話がずっと以前から出とったですね。そういうあたりで、私は何

のためのコミュニティなのかということで私は余りこのコミュニティ運営については賛成ではない立場でずっとお話をしてきたんですけども、結局22年度からそのあたり市職員のかかわりというのは結局どうされるのか、そして以前からも結局簡単な申請書関係、この申請書についても何とか市職員がおる間には行ったときには手続ができるようにというふうな方針を持っているというふうな形をずっと言われてきたわけなんですけど、結局そのあたりについても22年度以降はどういうお考えなのかですね。

**○議長（太田重喜君）**

地域づくり課長。

**○地域づくり課長（中島文二郎君）**

お答えをいたします。

このまず標準活動費ですけども、この分については自由に使っていいという考えなんですけども、委託料ですので市の規定があります。例えば飲食、そういった部分には使ってもらいたくないと、あとは自由に使っていただいていいというような考えを持っております。

それから、職員とのかかわり方なんですけども、最終的には嬉野地区と塩田地区が23年6月には立ち上げるように準備をしていただきたいというふうに思っておりますので、その時点で職員のかかわり方を回していきたい、今現在では3地区ありますので、3地区の中には月、水、金がそれぞれのコミュニティ、モデル地区のコミュニティに職員が今のところは住民対応じゃなくしてこのコミュニティの支援という形で出向いて支援をしているようなところであって、最終的に全地区にコミュニティが立ち上がった時点では、職員のかかわり方についてことしぐらいから具体的な検討をしていきたいというふうに考えております。あくまでもこの分についてはコミュニティと行政との役割分担をきっちりさせて進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（太田重喜君）**

神近勝彦議員。

**○13番（神近勝彦君）**

1つ答弁漏れがあったわけですけども、結局申請関係をどう考えるのかというところですね、前々から申請をやりたいということはずっと言われとったわけですから、それをもう一回お願いしたいのと、今、月、水、金、今職員さんが支援に行ってるというのは、あくまでも私はこのコミュニティがうまくいく、まだ立ち上がったばかりですので、サポートという考えで今聞いているわけですよ、今の課長答弁については。ただ、来年度ぐらいに完全にコミュニティができたときに、完全に組織として固まったときに、本当にそこで職員、前々の計画は職員を置くというふうな計画で来てるじゃないですか、一番最初の基本構想と違いますか、それがあつたもんですから、何で事務長さんがおつて役員さんたちが、そりゃ月に一

度ぐらいの会議なんでしょうけども、事務長さんがおって、何で市の職員もおらないかのかということでは一番最初的时候から反対の立場でずっと言ってるんですけども、まだ今のところその基本的な構想がある以上は、職員が常駐するという方向は変わらないわけですよ、確認です。

○議長（太田重喜君）

地域づくり課長。

○地域づくり課長（中島文二郎君）

申請については、今の段階では、今議員が言われたようにそれぞれのコミュニティの支援の活動ということで、そういったことでコミュニティには支援をしておるところであって、今現在では申請についてはしておりません。最終的に23年に立ち上がった時点で職員を配置するような形で進めていきたいと。具体的に先ほど申しましたように、このことについては行政がするもの、それからコミュニティがするもの、役割分担をはっきり決めて、行政にはその進め方には当たっていききたいというふうに考えております。

○議長（太田重喜君）

山口要議員。

○17番（山口 要君）

129ページの旅費で今回特別旅費として中央研修所入所、昨年の55万6,000円から109万円と増額がされておりますけども、これについては何名派遣をされる予定になってるのか、私自身はこういう研修所に行って研修されることは非常に結構だと思います。もっともっと増額してもいいんじゃないかという気持ちがあるわけなんですけども、そのことについてその関連の中で137ページの負担金補助金の中で全国自治体政策研究交流会佐賀大会ということで4万5,000円計上がされております。これが資料見ますと基礎自治体優先の事業推進を行っていくと、また政策能力の向上を図るということで説明がされておりますけども、こういう会にはぜひ多くの職員さんも参加していただきたいし勉強してほしいというふうになってる、今までこういう大会に参加された経緯があるのか、今回この大会に対して武雄までですから至近距離ですからすぐ行けると思うんですけども、大体何名ぐらい参加される予定なのかということをお尋ねをしたいと思っております。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

旅費につきましてのお問い合わせですけれども、中央研修というのがございますが、中央研修を滋賀県のほうで開催されておりますが、これに7回分ということでございます。

それから、市長会が研修を主催をしておりますけれども、職員研修でございますが、これ

につきまして延べ日数で46日ということで、各分野ごとに段階ごとに研修が行われておりますので、初任者から監督者、管理者というふうなことで研修が行われております。それに対する1回研修ということで、延べの46日ということで計算をしております。

それから、職員研修として、これはことし新たに3人で1組となった研修をやろうということで、研修旅費としまして新たにこれが54万円ということで計算をしております。大体以上で研修につきましては予算化をしております。

以上でございます。(17番山口 要君「後段の分の説明もうちょっとつきます。滋賀の研修じゃなくて後段の分の説明を」と呼ぶ) 負担金の(17番山口 要君「いやいや、そうじゃなしで、今説明された、滋賀の研修の分の7回分の46日、それともう一つおっしゃった3人1組どうのこうのということで、そのこともう一遍言っただけです」と呼ぶ) 職員研修の3人1組の研修についてでございますか。これにつきましては、22年度新たに研修を計画されておまして、職員が3人1組となって各行政の研修視察に行くというふうなものでございます。

以上でございます。

○議長(太田重喜君)

企画企業誘致課長。

○企画企業誘致課長(井上嘉徳君)

企画費に計上しております全国自治体政策研究交流会議佐賀大会4万5,000円の負担金でございますが、本年度この会議が武雄市で開催されるということで市長会のほうで決定されて当市の負担が4万5,000円ということで参っておりますので計上させていただいております。何名職員が参加するかということでございますが、多分これらにつきましては何名ということで後だって指定がくるかと思っておりますので、現在のところ何名参加できるかは不明でございます。(17番山口 要君「過去に行った経緯があるのか」と呼ぶ) 過去この会議に行ったかどうか、私はつかんでおりません。申しわけございません。

○議長(太田重喜君)

山口要議員。

○17番(山口 要君)

それじゃ、今回増額になった分については、3人1組の行政研修がふえた分が増額になったということで理解していいわけですかね、その分が。これについては、3人1組で大体何組ぐらいを行かされる予定なのか、そしてこれについてはどういうセレクトをされていくのか、手を挙げて募集するのか、それとも執行部のほうから指名をしていくのか、そして行き先については、その3人1組の人たちがそれぞれ視察先、研修先選んでするのか、あなたがここ行きなさいという形でするのかということをもう一度お尋ねをしたいと思います。

後段の分については、ぜひこのような大会については参加していただきたいと思っておりますし、

勉強していただきたいと思えますけども、これ市長会の研修場ということでありまして、市長いかがですかね、これについて恐らく今まで行っておられないんじゃないかという気は私としてはしていませんけれども、ぜひこういうものについて市長が職員に率先して研修にやるべきじゃないかという気がいたしますけれども、市長のお考えをお聞きしたいと思います。時間がないから、もう簡潔にいいです。

○議長（太田重喜君）

財政課長。

○財政課長（徳永賢治君）

職員研修についてお答えをいたします。

今回初めての取り組みというふうになりますが、職員3人1組、これそれぞれの職員がどういった研修をしたいかということで考えていただきます。例えば新幹線問題にしろ行政問題にしろあらゆる研修科目を自分でつくっていただきまして、その3人が手を挙げていただきまして各地に研修に行くわけですが、1人6万円の三六、十八万円ですね、その3組というふうになります。この6万円につきましては旅費、日当、交通費になりますが、その6万円を上限として研修をしていただきますが、もちろん交通機関を使ってもいいし、6万円だと結構遠くまで行ける、関西ぐらいまで行けるかもわかりません。あるいは近くでしたら公用車で……（17番山口 要君「もういい、それぐらいで、はいはいはい、」と呼ぶ）公用車の使用も可ということ。よろしいですか。（17番山口 要君「わかりました、はい」と呼ぶ）以上です。

○議長（太田重喜君）

市長。

○市長（谷口太一郎君）

お答え申し上げます。

現在まで参加はしたことはないんじゃないかなと思えますけども、今回につきましてはできるだけたくさん参加できるように、市長会のほうで計画ができると思えますので参加をさせたいと思います。

以上でございます。（17番山口 要君「もういいです、以上」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

お諮りいたします。

5時15分まで時間延長したいと思いますので、よろしいでしょうか。5時15分までの時間延長ということで。5時半までの時間延長ということでよろしくお願ひします。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

時間がないから簡潔に質問しますが、説明書の27ページ、航空写真の撮影というようにことで新規に。

○議長（太田重喜君）

127やろう。

○15番（西村信夫君）

ちょっと待ってください。資料が27、予算書は150です。その中で1,259万円新規、こちらのほうに計上されておまして、これは課税客体を迅速に、かつ正確に把握するために航空写真で撮影をして、そして課税対象を正確に把握するというふうなことで書いてありますが、この事業をどのようなことでされるのか質問していきたいと思います。

もう一つですが、この課税対象にするに当たっては、いつごろからこの対象を設けていくのか、23年度の課税から対象とするために今回実施されるのかどうなのか、そしてまた恐らく航空写真ですから、田畑、畑ですね、田、そしてまた宅地の問題等もありますけれども、そういう事業名も教えていただきたいと思います。

○議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

お答えします。

この航空写真撮影業務でございますが、事業内容につきましては航空機によるデジタルの航空写真撮影、嬉野市全域でございます、この航空写真製品をもとに課税客体であります土地、家屋含めたところの課税客体を把握するというのが目的でございます。それと、あつこの客体を把握した後の課税につきましては23年度から課税を進めることになります。

以上です。

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

この航空写真は何年置きに航空写真を撮影されて課税客体をされていくのか、そして当然法定外公共物とかあるいは道路占用使用料とか、そういった部分についてもこれは参考の写真撮影になるのかどうか、その点お尋ねしますが。

○議長（太田重喜君）

市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

お答えします。

頻度といいますか、前回は平成19年度の予算でお願いしておりました。それと、先ほどの法定外公共物等についてどうかということですが、担当課におきまして私たちがこの写

真のデータを取り込んでもらえれば、そちらのほうにも使用できるんじゃないかというふう  
に思っております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

済みません、ちょっと記憶間違いやったら済みませんが、これ単独の嬉野市だけのあれ  
やったですかね、19年度、近隣の市町と一緒に実施されるとやったじゃなかったかなと思  
うとですけど。

○議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

平成20年度におきましては嬉野市単独ということになりました。以前は近隣の市町と合同  
で撮影をされたという経緯がございました。

以上です。

○議長（太田重喜君）

小田寛之議員。

○6番（小田寛之君）

今回は単独ですかね。（市民税務課長（支所）小野彰一君「はい、単独です」と呼ぶ）  
（13番神近勝彦君「関連」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

私の最後の質問にこれを言おうかと思ったら、ずっと、出ましたんで、これは先ほど小田  
議員のほうから出たように、以前は合同でやってたわけですよ、経費節減のために。今回  
多分単独だと思って質問したかったんですが、なぜ単独になったのか、関係市町村との連携  
がとれなかったとしかやっぱり答弁ないのかなと思うんですけども、かなり金額違うはずで  
すよ、合同の場合とですね。何でかなと思ってですね。

○議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

お答えします。

単独となった理由につきましては、近隣の市町といますか、武雄市、鹿島市、太良町を  
含めたところでお話をさせていただいたときに、鹿島市のほうがどうしても予算がつかない

ということがございまして、まずそれと太良町の場合がこの予算もつかないし、何年に一度という頻度もそんなに飛ばさなくていいということもありました。武雄市については飛行機を飛ばす時期が嬉野の場合は一番緑が映える5月中旬ぐらいまでを想定しておりましたが、武雄市の場合がうちの場合は秋以降でもいいよというような形で話がありましたので、今回は単独で計上させていただいております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

神近勝彦議員。

○13番（神近勝彦君）

わかりました。鹿島と太良町についてはわかりました。武雄市さんも結構やられるんですよ、この航空写真ですよ、秋にやられるというその意図がちょっと私、その担当担当の考え方次第なんでしょうけども、嬉野市としてはやはり5月、6月のときの色の違いでいろんな樹木の違い、そういうところとか木種の違いとかでわかりやすいということで多分初夏を選んだのかなという気がするんですけども、そのあたりも調整がつかなかったら、もう単独の高い値段で、もう仕方ないですよ、やるしかないんですから、これは。

もう一点お願いをしたいのが、農林関係なんですけども、これ字図かぶせますよね、航空写真に字図をかぶせるじゃないですか、字図、字図。こういう完全にかぶせて、確実にそれが確実にそうだというあれはないと思うんですけども、参考資料的にそういうのを私ども市民が欲しいと言ったときには出していただきたいんですよ。というのは、山は境がわからないんですよ、はっきり言って。皆さんがおじいちゃんとかなんとかから相続受けたにしても、結局山の境がわからないもので、どうしようもないんですよ。航空写真に字図載せてあるのを私きのうも見せていただきました。あれを見せていただければ、大体わかるんですよ。もう基本的に大体でいいので、それを見せてもらうことができれば、結局相続をしていくにも、おおむねこれくらいがうちの土地だよというのがわかりやすいんですよ。あれ出してもらえないんですよ、なかなかですね。だから、それを出していただければ、大変今後の相続については助かるんですけども。

○議長（太田重喜君）

支所市民税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

今議員さんの御質問とかお尋ねがあった件につきましては、委員会の中でも論議いただきまして、今後検討をさせていただきたいというふうにお答えしたいと思います。（13番神近勝彦君「まあいいです」と呼ぶ）（11番田中政司君「関連、関連」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

田中政司議員。

○11番（田中政司君）

確認ですけど、それ私が言うたんですけれど、彼杵は出しよつとですよ、確認とおっしゃったですか。確認をとりますということやったけど。

○議長（太田重喜君）

支所税務課長。

○市民税務課長（支所）（小野彰一君）

はっきり言いまして今のちょっと議会后終わってからのというふうに私認識しておりましたので、まだ確認とっておりません。済みません。（11番田中政司君「委員会で質問があったことは本会議であるけんですよ、ぜひ委員会で電話かけて一本とるとわかることやけんですね、委員会で質問されたことは本会議場で絶対質問されるんですよ。ぜひそこら辺はやつといてほしいというふうに思います。終わります」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

田口好秋議員。

○14番（田口好秋君）

今の質問ですね、先ほどお二方か、ぜひできるようにしていただければ非常に助かります。山の形、要するに境い目の形がどうなってるか、あるいは峰のところからどうだとか川のところからどうだとか、ぜひお願いしたいと思います。

私は違う質問ですが、選挙費のところでは157ページ、あえて借上げ料を言いますが、ここに出ておりますが、このこと自体じゃなくて私が言いたいのはほかにあるんですが、まずこの借上げ料の27万6,000円、賃借料のですね、これはどこなのか教えていただきたいと思ひます。157。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

27万6,000円でございますか。お答えいたします。

27万6,000円につきましては、投票所の借上げ料ということで、旧Aコープのほうを借上げをして期日前投票を行っておりますが、その分でございます。

○議長（太田重喜君）

田口好秋議員。

○14番（田口好秋君）

はい、わかりました。実は投票所の件について、私はこの前の市議会議員選挙の投票の前に、まだ選挙運動期間中に、谷所の投票所について足の不自由な方がということで電話をしたんですよ。どうしてもだめだということであったわけですが、再度選挙後にまた電話がありまして、何とかできないかというのはありましたので、あえてここでお願いするわけで

すが、時代に逆行してるんじゃないかなと思われるということで申し上げるわけですが、谷所の投票所が足の不自由な方に対しては非常に不便だと、玄関から上がっていく場合いですね、あそこで靴を脱いだりとかする場合、非常に自分じゃなくてほかのお年寄りも不自由だということでありましたので、あえて申し上げるわけですが、何とかあそここのところをスムーズに土足のまま行けるようにしていただきたいなど。選挙前に電話したときには、期日前投票もありますから市役所のほうにということをおっしゃいました。そのように伝えましたら、その方が選挙後にやはりほかのお年寄りも不自由かばいということでございましたので、ぜひそここのところは改善をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えいたします。

谷所の投票所につきましては、議員御指摘のとおり靴を脱いで上がるというふうなことでなかなか不便だというふうに私も感じてはおりますが、これにつきましては再度検討して御不便をかけないような方法で持っていきたいと思っております。

以上でございます。（15番西村信夫君「関連です」と呼ぶ）

○議長（太田重喜君）

西村信夫議員。

○15番（西村信夫君）

今田口議員の質問にちょっとお尋ねしたいんですけども、あそこ谷所は八天神社の参道に行く道路から学校の校庭、そこまでは1メートルぐらい段差があるわけですよ。そこを45度ぐらいの角度で特設な階段ばつくってあるわけですよ。それで、板の上に滑らんと小さいのをちょこちょことしたぐらいやけん、あそこはお年寄りでも普通の健常者でも雨降りとかああいうふうな時期的に寒い時期ですので、非常に危ないです、あそこは。よくけがせんばよかけどなあと思いつつながら、私もくれぐれも心配しとったわけですけども、早急にあれを改善をしていただきたいなどと思っております。

以上です。

○議長（太田重喜君）

本庁総務課長。

○総務課長（本庁）（中島直宏君）

お答えします。

先ほどの件とあわせて検討させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（太田重喜君）

ほかに質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで第2款、総務費までの質疑を終わります。

お諮りいたします。議案質疑の途中でございますが、本日の会議はこれにて延会したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。本日はこれで延会することに決定しました。本日はこれで延会いたします。大変お疲れさまでした。

午後5時6分 延会